

松浦市文化財調査報告書 第3集

松浦市内遺跡確認調査(2)

2009

長崎県松浦市教育委員会

松浦市内遺跡確認調査(2)



2009

長崎県松浦市教育委員会

報 告 書 抄 録

ふりがな	まつうらしないいせきかくにんちょうさ							
書名	松浦市内遺跡確認調査（２）							
副書名								
巻次								
シリーズ名	松浦市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第３集							
編著者名	中田敦之・松尾昭子							
編集機関	松浦市教育委員会							
所在地	〒８５９－４５９８ 長崎県松浦市志佐町里免３６５番地 TEL0956-72-1111							
発行年月日	西暦 ２００９年３月３１日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 。 。 ”	東経 。 。 ”	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
しないいせき 市内遺跡	なが まつ し 市 なき うら 浦 ない いち 市 けん し えん 円	42208	—	—	—	18. 6. 5 ～ 20.12.16		土地開発 に伴う 確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
市内遺跡	包含層	縄文時代 弥生時代 中世	甕棺墓 柱穴	<ul style="list-style-type: none"> ・黒曜石製石鏃 ・弥生土器 ・磨製石剣 ・土師器 ・輸入陶磁器 (青白磁・青磁・白磁) ・土錘 ・近世陶磁器 				

発刊にあたって

松浦市は、長崎県北部に位置しており、中国大陸・朝鮮半島に近いという地理的条件を有しているため、旧石器時代から中世期にかけての文化財が数多く存在しております。

なかでも中国後漢時代の鏡が出土した栢ノ木遺跡や中国・朝鮮半島産の陶磁器を多数出土した楼楷田遺跡などはその代表的なものです。

近年、松浦市においても各地で各種の開発事業が相次いで行われております。松浦市教育委員会では、このような状況を踏まえたうえで、これらの開発と文化財保護との調整を図り、やむをえず保存できない埋蔵文化財については、事前の発掘調査を行い、できるだけ正確な記録保存の措置を講じています。また、遺跡の保存・活用についても努めているところであります。

本書は、平成18年度から20年度に国庫補助・県費補助を受けて実施した各種開発と文化財の保護調整のための確認調査の記録です。今回の調査に際しましては、関係者のご理解と多くの方のご参加を得て実施することができました。特にご協力をいただいた土地所有者の方々をはじめ多くの人々のご理解とご協力に対しまして、心より深く感謝申し上げます。

最後になりましたが、本書が松浦市の歴史を学ぶ基礎資料として、市民各位の文化財保護行政に対するご理解、さらにはその普及の一助として役立つことを祈念いたしまして発刊のご挨拶といたします。

平成21年3月31日

長崎県松浦市教育委員会

教育長 松尾 紘

例 言

1. 本書は、平成18年度から平成20年度にかけて松浦市内において実施した確認調査報告書である。
2. 調査は、国庫補助及び県費補助を受けて松浦市教育委員会生涯学習課が主体となって実施した。
3. 調査及び本報告書作成にあたっては、長崎県学芸文化課をはじめ、多くの方にご指導・ご協力を賜った。
4. 調査時における写真撮影は生涯学習課中田敦之と松尾昭子があたり、遺物の写真撮影は松尾があたった。遺物の実測・製図は、松尾、吉野貴子、宮崎朝美があたった。
5. 本書の執筆・編集は、中田の協力により松尾が担当した。
6. 出土遺物は、松浦市教育委員会がその保管の任にあたり、松浦市生涯学習センター（松浦市志佐町浦免1483番地1）郷土資料室にて一括保管している。
7. 写真図版の縮尺は、不統一である。
8. 本書は、松浦市文化財調査報告書第3集にあたる。

本文目次

第I章 はじめに	1～4
1. 調査に至る経過	1
2. 調査の組織	1
第II章 地理的・歴史的環境	5～6
1. 地理的環境	5
2. 歴史的環境	5
第III章 平成18年度の確認調査の概要	7～18
1. 久保園遺跡	7
2. 久保園遺跡	12
3. 栢ノ木遺跡	15
第IV章 平成19年度の確認調査の概要	19～31
1. 栢ノ木遺跡	19
第V章 平成20年度の確認調査の概要	32～40
1. 久保園遺跡	32
2. 栢ノ木遺跡	36
第VI章 まとめ	41～42

插图目次

第1图	松浦市内遺跡分布図（1/100,000）	3～4
第2图	久保園遺跡位置図（1/10,000）	7
第3图	4次調査区設定図（1/600）	7
第4图	4次調査区土層・遺構配置図①（1/40）	8
第5图	4次調査区土層・遺構配置図②（1/40）	9
第6图	4次調査区出土遺物①（2/3）	10
第7图	4次調査区出土遺物②（1/2）	10
第8图	4次調査区出土遺物③（1/3）	11
第9图	久保園遺跡位置図（1/10,000）	12
第10图	5次調査区設定図（1/1,000）	12
第11图	5次調査区土層・遺構配置図（1/40）	13
第12图	5次調査区出土遺物①（2/3）	14
第13图	5次調査区出土遺物②（1/3）	14
第14图	栢ノ木遺跡位置図（1/10,000）	15
第15图	21次調査区設定図（1/1,500）	15
第16图	21次調査区土層・遺構配置図①（1/40）	16
第17图	21次調査区土層・遺構配置図②（1/40）	17
第18图	21次調査区出土遺物①（2/3）	18
第19图	21次調査区出土遺物②（1/3）	18
第20图	栢ノ木遺跡位置図（1/10,000）	19
第21图	22次調査区設定図（1/1,500）	19
第22图	22次調査区土層・遺構配置図①（1/40）	20
第23图	22次調査区土層・遺構配置図②（1/40）	21
第24图	22次調査区土層・遺構配置図③（1/40）	22
第25图	22次調査区土層・遺構配置図④（1/40）	23
第26图	22次調査区出土遺物①（2/3）	24
第27图	22次調査区出土遺物②（2/3）	25
第28图	22次調査区出土遺物③（1/3）	26
第29图	22次調査区出土遺物④（1/3）	27
第30图	22次調査区出土遺物⑤（1/3）	28
第31图	22次調査区出土遺物⑥（1/3）	29
第32图	22次調査区出土遺物⑦（1/3）	30
第33图	久保園遺跡位置図（1/10,000）	32
第34图	6次調査区設定図（1/600）	32

第35図	6次調査区土層・遺構配置図①（1/40）	33
第36図	6次調査区土層・遺構配置図②（1/40）	34
第37図	6次調査区4号甕棺墓実測図（1/20）	35
第38図	6次調査区出土遺物①（2/3）	35
第39図	6次調査区出土遺物②（1/3）	35
第40図	栢ノ木遺跡位置図（1/10,000）	36
第41図	23次調査区設定図（1/1,500）	36
第42図	23次調査区土層・遺構配置図（1/40）	37
第43図	23次調査区土層図①（1/40）	38
第44図	23次調査区土層図②（1/40）	39
第45図	23次調査区出土遺物（1/3）	40

表 目 次

表1	平成18年度～20年度の法第93条・第94条関係届出等一覧表	2
----	--------------------------------	---

図 版 目 次

図版1	久保園遺跡4次調査風景	44	図版19	栢ノ木遺跡22次T6遺構検出状況	46
図版2	久保園遺跡4次T1北土層	44	図版20	栢ノ木遺跡22次T6遺構検出状況	46
図版3	久保園遺跡4次T3西土層	44	図版21	栢ノ木遺跡22次T13遺物出土状況	46
図版4	久保園遺跡4次T6西土層	44	図版22	久保園遺跡6次T1南土層	46
図版5	久保園遺跡4次T7南土層	44	図版23	久保園遺跡6次T4西土層	46
図版6	久保園遺跡4次T3遺物出土状況	44	図版24	久保園遺跡6次T1・4号甕棺墓検出状況	46
図版7	久保園遺跡5次調査風景	44	図版25	久保園遺跡6次T1遺構検出状況	47
図版8	久保園遺跡5次T1北土層	44	図版26	栢ノ木遺跡23次T2遺構検出状況	47
図版9	久保園遺跡5次T2北土層	45	図版27	栢ノ木遺跡23次T2遺構検出状況	47
図版10	久保園遺跡5次T6北土層	45	図版28	栢ノ木遺跡23次T2遺構検出状況	47
図版11	栢ノ木遺跡21次T1北土層	45	図版29	栢ノ木遺跡23次T10遺構検出状況	47
図版12	栢ノ木遺跡21次T1遺構検出状況	45	図版30	出土遺物①	47
図版13	栢ノ木遺跡21次T2北土層	45	図版31	出土遺物②	47
図版14	栢ノ木遺跡21次T2遺構検出状況	45	図版32	出土遺物③	48
図版15	栢ノ木遺跡21次T3遺構検出状況	45	図版33	出土遺物④	48
図版16	栢ノ木遺跡21次T4北土層	45	図版34	出土遺物⑤	49
図版17	栢ノ木遺跡21次T4遺構検出状況	46	図版35	出土遺物⑥	49
図版18	栢ノ木遺跡22次T4西土層	46	図版36	出土遺物⑦	50

第 I 章 はじめに

1. 調査に至る経過

松浦市における埋蔵文化財保護行政は、長崎県教育委員会の指導のもと、文化財保護法に基づき立会調査や確認調査など積極的に対応してきている。その成果もあり、現在では開発行為を行う際には事前に文化財保護に関する協議や照会を行うことが定着してきている。平成18年1月1日の旧松浦市・北松浦郡福島町・同鷹島町の1市2町による合併で事前の協議や照会も増えてきている現状である。

旧松浦市域では、農業基盤整備事業（圃場整備）や道路改良工事などの公共事業も減少傾向にあるが、公共下水道工事や個人の宅地造成などの民間事業は増加の傾向を示している。また、平成20年度からは県教育委員会による西九州自動車道の建設に伴う今福地区の八幡山城跡、中ノ瀬遺跡の立会調査、確認調査や本調査が行われている。ここ数年はこの西九州自動車道関連の調査が今福地区から調川地区へと継続して行われる予定である。

平成18年度の法第93条・第94条関係届出等の件数は12件で、このうち国庫・県費補助事業（以下補助事業という）関係で実施した確認調査件数は栢ノ木遺跡ほか2件であった。

平成19年度の法第93条・第94条関係届出等の件数は14件で、このうち補助事業関係では栢ノ木遺跡の確認調査を実施している。

平成20年度の法第93条・第94条関係届出等の件数は10件で、このうち補助事業関係では2件の確認調査を実施している。確認調査した遺跡は久保園遺跡と栢ノ木遺跡であった。

この3年間での届出を見てみると平成18年度から開始された公共下水道整備事業に伴う遺跡内の管渠埋設の通知関係が市街地に集中している。遺跡名では、久保園遺跡、陣ノ内城跡、宮ノ下り遺跡であり、このことは、市街地の周辺部が宅地化していることを物語っていると同時に、市民への埋蔵文化財の周知化が進みつつあることの現れであろう。

2. 調査の組織（敬称略）

調査主体	松浦市教育委員会事務局
	教育長 宮本勝行（平成19年2月22日まで）
	教育長 松尾 紘（平成19年2月23日から）
	生涯学習課長 神田 稔
	課長補佐 中田敦之
調査担当	文化財係長 中田敦之（兼社会教育主事・兼学芸員）18年度分
	文化財係 松尾昭子（学芸員）19年度・20年度分
報告書作成担当	文化財係長 中田敦之（兼社会教育主事・兼学芸員）
	文化財係 松尾昭子（学芸員）

庶務担当 文化財係主事 木村大輔（平成20年5月6日まで）
文化財係副主任 服部浩史（平成20年5月7日から）

整理補助員 宮崎朝美・吉野貴子

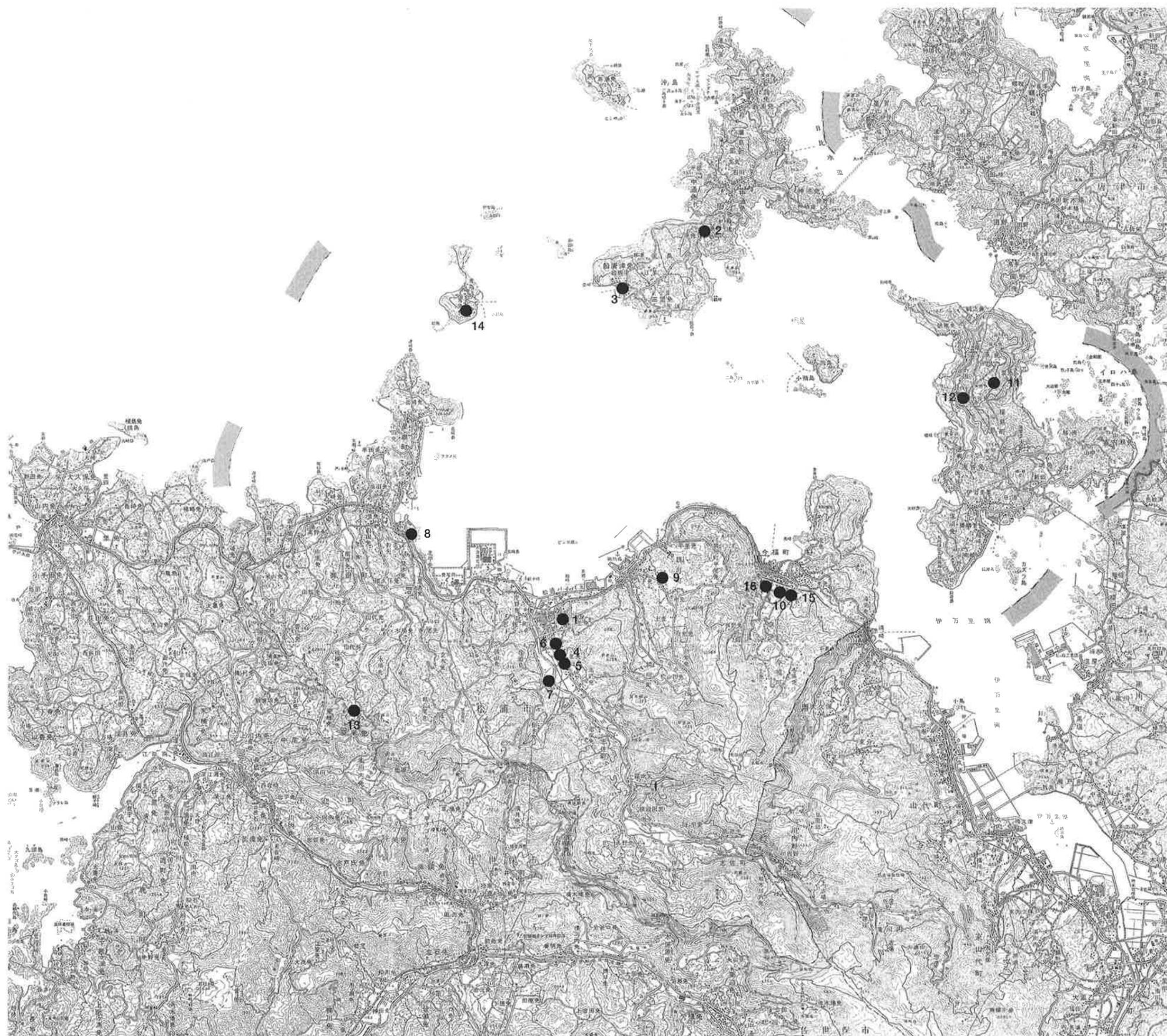
調査参加者 里森知恵子・富野トシエ・松永セツエ・渡口洋子・天久保正子・
吉田末千子・松永チエ子・田中節子・末永民子・森淑子・渡口米子・
原葉子・富本敏子・中島カズ子・森山八重美・森山浩一郎・崎田政子・
松永ヒデミ・田代タミ子・宮崎朝美・増本ツギ子・増本義隆・田中稔・
田中佐恵子・田中幸江

調査協力者 松崎康夫・松永良一・小村博員・小沢源太郎・浦田堯也・山口スエ子・
山口登茂之・松永徳一・前田秀一・守山重義・本山勝弘・中川五一郎

表1 平成18年度～20年度の法第93条・第94条関係届出等一覧表

年度	遺跡名	届出地	事業内容	事業主	処置	
18	辻ノ尾遺跡	志佐町里免汐入・辻ノ尾	管渠埋設	松浦市	慎重工事	
	沖前遺跡	鷹島町原免691-1他	道路建設	長崎県	慎重工事	
	鷹島海底遺跡	鷹島町船唐津免550番10他地先	道路建設	長崎県	慎重工事	
	久保園遺跡	志佐町高野免106番他	住宅建築	不動産	確認調査	
	久保園遺跡	志佐町里免237番他	住宅建築	個人	確認調査	
	久保園遺跡	志佐町高野免98-3番他	管渠埋設	松浦市	慎重工事	
	久保園遺跡	志佐町里免246番地先	管渠埋設	松浦市	慎重工事	
	宮ノ下り遺跡	志佐町里免155番2他	管渠埋設	松浦市	慎重工事	
	陣ノ内城跡	志佐町里免256番地先他	管渠埋設	松浦市	慎重工事	
	宮ノ下り遺跡	志佐町高野免1066番1地先	管渠埋設	松浦市	慎重工事	
	久保園遺跡	志佐町里免227番2地先他	管渠埋設	松浦市	慎重工事	
	栢ノ木遺跡	志佐町栢木免2750番地1他	範囲確認調査	松浦市	確認調査	
	19	沖前遺跡	鷹島町原免691-1他	道路建設	長崎県	慎重工事
		向山館跡	御厨町北平免175-1他	道路法面改良	長崎県	慎重工事
久保園遺跡		志佐町里免211番1地先他	管渠埋設	松浦市	立会調査	
陣ノ内城跡		志佐町里免295番2地先他	管渠埋設	松浦市	立会調査	
古園遺跡		調川町中免	ボーリング調査	長崎県	慎重工事	
久保園遺跡		志佐町里免239番4地先他	管渠埋設	松浦市	立会調査	
宮ノ下り遺跡		志佐町高野免1014番1地先	管渠埋設	松浦市	慎重工事	
久保園遺跡		志佐町里免239番4	住宅建築	個人	慎重工事	
中ノ瀬遺跡		今福町東免	道路建設	国交省	慎重工事	
久保園遺跡		志佐町高野免97番地先	管渠埋設	松浦市	慎重工事	
沖前遺跡		鷹島町原免646-1他	道路建設	長崎県	慎重工事	
神ノ前遺跡		福島町里免1211-2他	農道舗装	受益者	慎重工事	
土谷遺跡		福島町土谷免90-3	個人住宅	個人	慎重工事	
栢ノ木遺跡		志佐町庄野免808番地他	範囲確認調査	松浦市	確認調査	
20		久保園遺跡	志佐町里免228他	住宅建築	個人	確認調査
		アカニ夕池遺跡	御厨町板橋免150番地	堤体改良	長崎県	慎重工事
		中ノ瀬遺跡	今福町浦免160-1・161番地	現場棟設置	長崎県	立会調査
	青島遺跡	星鹿町青島免825番2	無線基地建設	N T T	分布調査	
	中ノ瀬遺跡	今福町浦免中ノ瀬	道路建設	国交省	立会調査	
	栢ノ木遺跡	志佐町庄野免801番地1他	範囲確認調査	松浦市	確認調査	
	中ノ瀬遺跡	今福町浦免276-1他	排土置き場	長崎県	慎重工事	
	中ノ瀬遺跡	今福町浦免	道路建設	国交省	発掘調査	
	八幡山城跡	今福町東免	道路建設	国交省	慎重工事	
	今福遺跡	今福町仏坂免	道路建設	国交省	慎重工事	

番号	遺跡名
1	辻ノ尾遺跡
2	沖前遺跡
3	鷹島海底遺跡
4	久保園遺跡
5	宮ノ下り遺跡
6	陣ノ内城跡
7	栢ノ木遺跡
8	向山館跡
9	古園遺跡
10	中ノ瀬遺跡
11	神ノ前遺跡
12	土谷遺跡
13	アカニ夕池遺跡
14	青島遺跡
15	八幡山城跡
16	今福遺跡



第1図 松浦市内遺跡分布図 (1/100,000)

第Ⅱ章 地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

長崎県本土の北端に位置する松浦市は、北松浦半島の北端部とその沖に浮かぶ福島・鷹島・黒島・飛島・青島などのいくつかの島々から構成されている。松浦市の東には有田焼の積出港で有名な佐賀県伊万里市と、また、21年4月に鷹島肥前大橋が開通し、陸続きとなる名護屋城跡を有する佐賀県唐津市とも接することとなっている。松浦市の西には平成17年10月1日に近隣一市二町一村が合併して誕生した平戸市が位置している。同田平町には西の登呂遺跡といわれ、多くの木製品や弥生中期初頭の甕棺墓から多紐細文鏡が出土した「里田原遺跡」がある。南は平成17年4月1日に佐世保市と合併した「福井洞窟」を有する吉井町及び世知原町と接している。福井洞窟は縄文草創期の隆起線文土器が出土しており、世界的にも注目されている遺跡である。近年は第15層から出土した石器の再評価も行われている。このように、松浦市の周辺の行政区においては、日本の歴史上においても重要な地域であり、中国大陸・朝鮮半島とも近いという地理条件からも、特に旧石器時代から現代においても交易の拠点として栄えてきた地域でもあり、遺跡の宝庫でもある。

松浦市の地質は、第三紀層を基盤として、その上に玄武岩が広く堆積している地質構造を呈している。この玄武岩は、北松浦半島を中心に西九州に広く分布する松浦玄武岩（北松玄武岩）と称されるもので、典型的な溶岩台地を形成している。かつては、伊万里市南方を中心として噴出した火山であったと思われる。したがって、佐賀県境を占拠する標高777mの国見山を主峰とし、北および西に高度を減じている。この台地が形成されたのは八百万年以前の新第三紀の火山活動で、粘性の低い溶岩が楕状に広がった結果によるものである。第三紀層は砂岩や泥岩の互層の堆積岩からなっており、かつての北松炭田はこの夾炭層を利用していた。第三紀層と玄武岩との間には、八ノ久保砂礫層があり、上位の玄武岩と作用して北松型地すべりを発生させる要因でもある。

松浦市の地勢は、島嶼部を除くと南高北低をなし、河川もすべて北流している。市の南側には400～500m級の高位台地があり、悪太郎川以西では100m以下の低位台地が広がっている。市西部の星鹿半島先端の津崎鼻や西田地区の波津崎には、長い年月の風化作用より海岸線を急峻に切り立たせた玄武岩の柱状節理の海食崖が発達している。この玄武岩が基盤になっているが、長い年月の侵食による地形の変化が著しく、現在の山頂部や山裾に溶岩流の一端を見ることができる。

2. 歴史的環境

松浦市内の遺跡では、圧倒的に旧石器時代・縄文時代の遺跡が多いのが特色でもある。その中でも後期旧石器時代の遺物散布地は約40箇所にも及んでいる。この背景には星鹿半島の牟田地区・大石地区から産出する黒曜石及び伊万里市腰岳の山麓に産出する黒曜石の原石が容易に入手できる地理的要因が考えられる。ナイフ形石器・台形石器の資料が、牟田B・中ノ崎・長蔵坊・楼楷田・田口高野・田川・開田・長畑・寺ノ尾C遺跡などで確認されている。しかし、これまでの確認調査・本調査では良好な包含層の発見までには至っていない。

縄文時代では、姫神社遺跡・小嶋遺跡・鷹島海底遺跡など良好な遺跡も知られている。姫神社遺跡は、昭和41年にアメリカのウィスコンシン大学アルバート・モアと日本人学者（内藤芳篤・吉崎昌一ら）による合同調査が行われている。田川遺跡では、縄文中期終末から後期初頭頃に位置づけられる坂の下式系土器とともに多数の石鏃・剥片鏃・つまみ形石器・石鋸などが出土している。

弥生時代では、大正14年に発見され、現在、長崎県の重要遺跡として周知されている池田遺跡がある。池田遺跡は、4次にわたる確認調査で、縄文晩期から弥生前期にかけての良好な包含層が検出され、柱穴・箱式石棺墓・甕棺墓・土壙などの遺構と西平式土器・刻目突帯文土器・板付Ⅱ式土器・骨製ヤス・貝輪などの遺物が出土している。栢ノ木遺跡からは、箱式石棺墓3基と甕棺墓3基が検出されている。甕は成人用で器形から前期後半の資料である。2号石棺の枕石上には内行花文鏡片が副葬されており、首長層の誕生が考えられている。その後の第17次調査でも甕棺墓2基、石棺墓2基が検出されている。この栢ノ木遺跡から志佐川を挟んだ北東には久保園遺跡があり、中期前半の甕棺墓3基を検出している。

古墳時代では、昭和62年度に石室の天井部を失って露出し、方形の玄室プランに羨道を付した横穴式石室をもつ小嶋古墳群の1基を調査している。玄室内より銀環・碧玉製勾玉・ガラス製丸玉などが多数出土しており、7世紀代に比定できる円墳の資料である。3基からなる宝ヶ峯古墳群は6世紀後半に、また、高さ1.3mのマウンドが残っている6世紀中頃の横島古墳がある。久保園遺跡に隣接して宮ノ下り遺跡があり、箱式石棺墓1基・竪穴式住居跡2棟・溝状遺構が検出されている。住居跡は4世紀後半から5世紀代にあっている。遺物では4世紀中頃の布留式古段階の土師器甕、5世紀代にかけての甕・坏・高坏などが出土している。

歴史時代以降では、「宇野御厨」の痕跡であろう。『東南院文書』に寛治3年(1089)8月17日の筑前国観世音寺三綱解案に「宇野御厨別当下文」と宇野御厨の地名が出てくる。鎌倉時代には荘園となり、宇野御厨荘または単に御厨荘と呼ばれている。『石志文書』の康和4年(1101)8月29日の肥前国宇野御厨検校源久讓状案である。この文書は偽文書の疑いがあるが「宇野御厨検校散位」（源久）という松浦党の祖といわれる人物の名が見える。この源久は延久元年(1069)現在の松浦市今福町に下向し、土着したといわれている人物で、以後の松浦党の諸氏は久を祖としている。松浦党は、宇野御厨および御厨荘一帯に土着した源姓一字名の集団を中心に、当初はその姻族が加わった武士団であったと思われ、西北九州で絶大なる影響力を持つようになる。松浦党は、玄界灘を熟知した航海術で大陸との交易活動を盛んに行っている。こんな中、文永11年(1274)と弘安4年(1281)には元軍が襲来している。特に弘安4年の時には伊万里湾一帯が元軍の殲滅した場所として知られており、鷹島海底遺跡として周知されている。平成6年度の神崎港の本調査では、2個の礎石が対になった木製椀が海底面より1m下がったシルト層で元位置を保って検出している。

松浦市を含む北松浦半島から東松浦半島の玄界灘に面する一帯は、中世の松浦党の存在を抜きにしては語れない。しかし、その組織の実態は明確ではないため、考古学的手法により松浦党が割拠した中世の実態の解明に迫る必要がある。

第三章 平成18年度の確認調査の概要

ここでは、平成18年度に国庫補助を受けて確認調査を実施した3遺跡について、その調査を以下に概説する。

1. 久保園遺跡（第2図～第8図）

立地 市の中心部を流れる志佐川の右岸河岸段丘上に位置している。遺跡の北側には中世の陣ノ内城跡が、南側には中世の集落跡である宮ノ下り遺跡が位置している。

調査 5月22日付にて個人の宅地建築に伴う届出が提出された。申請地は県道佐世保・日野・松浦線と市道久保園線が接続する地点の水田部及び畑地である。調査地点は平成10年度に範囲確認調査を実施した陣ノ内城跡に隣接していることと、

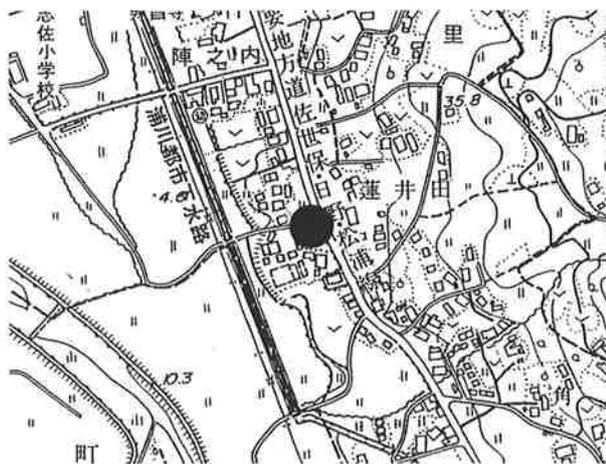
周知の久保園遺跡の最北端にあたっていることを考え範囲確認調査を実施することとした。調査は6月5日から6月22日にかけて実施し、3m×2mの調査区を8箇所設定し48㎡を調査した。

検出遺構 T4区では耕作土の下はすぐ地山の黄褐色粘質土層であった。T5・T6区調査区で上面を削平された柱穴遺構を検出した。なおT6区では6個の柱穴を検出しており、ピット1から土師器片、青磁片、鎬蓮弁文青磁片が出土していることから中世期の所産と思われる。

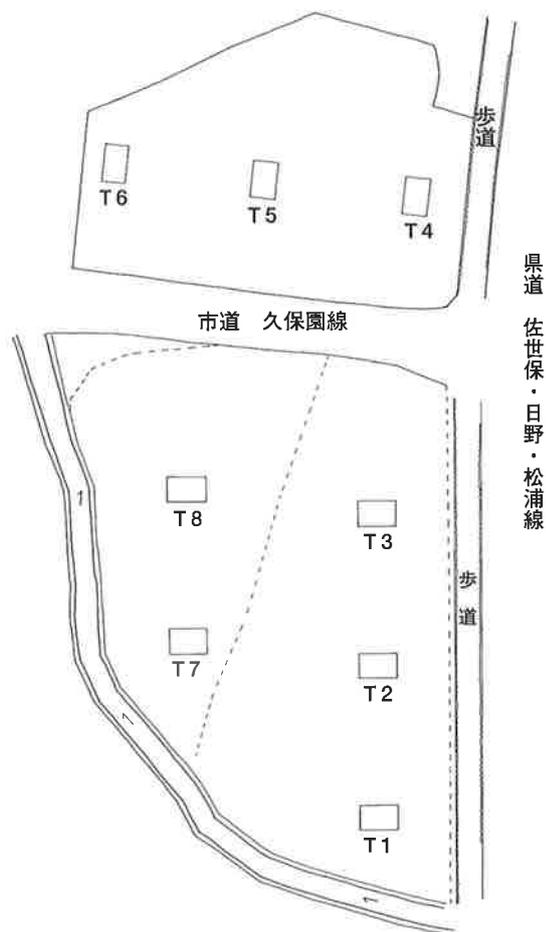
出土遺物 遺物はT4区以外に集中しており、出土した遺物の総数は3,062点であった。主な遺物は黒曜石製石核・剥片・碎片、安山岩製石核・剥片・碎片の資料が多い。

1は黒色黒曜石製石鏃で先端部を欠損している平基鏃である。T2排土採集。

2は器両面中央部に凹面を有する玄武岩製の凹石である。表裏面とも煤が付着している。使用後に破棄されたと考えられる。全長11.0cm、幅9.9cm、厚さ5.0cmである。T1IV層出土。



第2図 久保園遺跡位置図 (1/10,000)

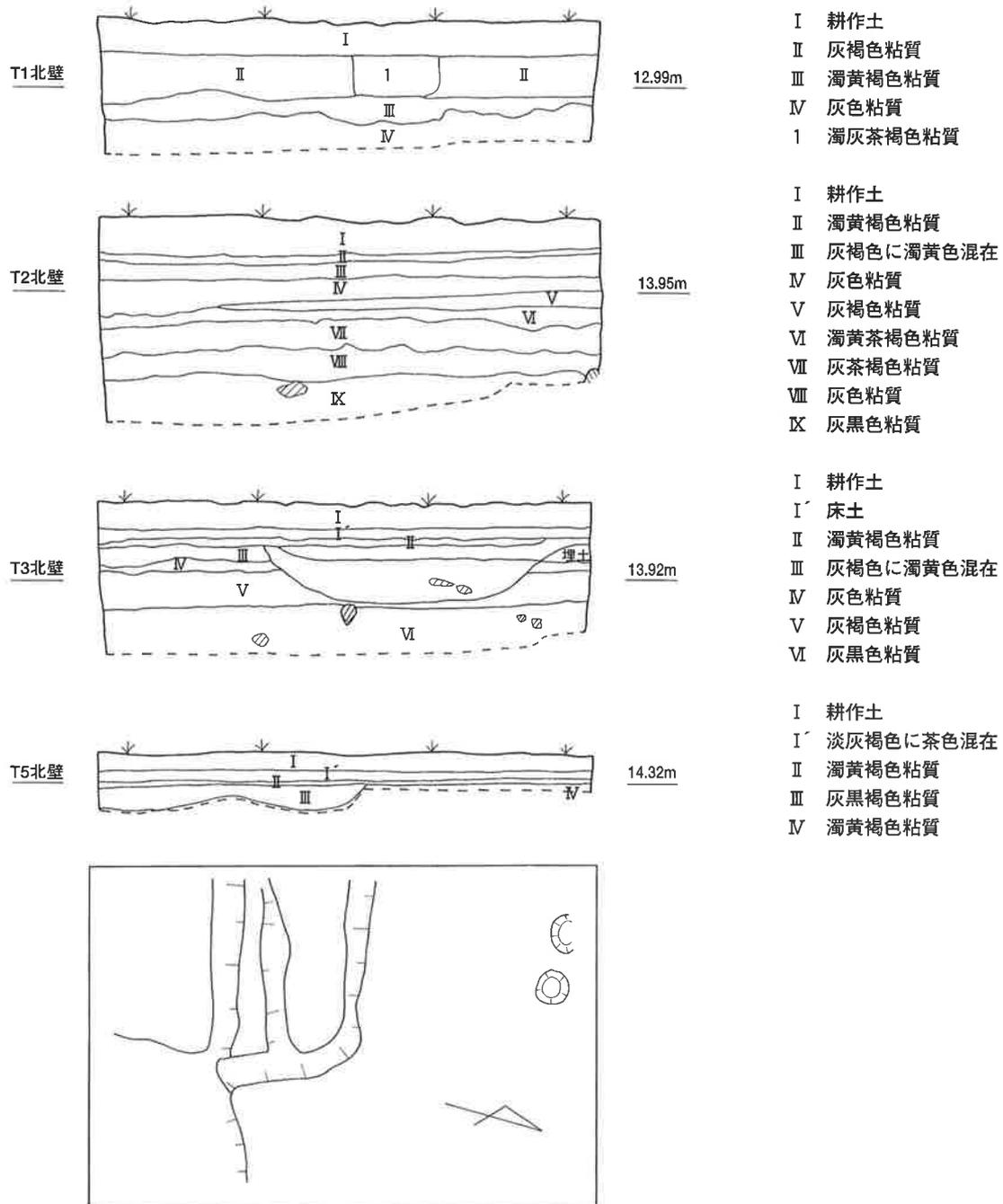


第3図 4次調査区設定図 (1/600)

3は滑石製石鍋の口縁部の破片である。方形の耳を縦に有しており、口縁部が水平ではなくやや下方に下がり気味で口縁端部を意識的に削り落とし丸く仕上げている。内面は斜位に粗い鑿痕が残っている。復元口径は23.2cmを測る。T 2 IV層出土。

4は滑石製石鍋の底部である。外部に縦位の鑿痕があり、内面は磨きをかけている。外面底部の一部まで煤が付着している。底径19.8cmを測る。

5は龍泉窯系青磁碗である。外面に鎬蓮弁文を有する太宰府分類のⅡ－b類の資料である。釉は淡緑色で、胎土は灰白色である。T 1 IV層出土。



第4図 4次調査区土層・遺構配置図① (1/40)

6は白磁皿である。内面見込みの釉を輪状に搔き取っており、口縁部はやや外反している。高台畳付けには施釉されていない。釉は灰白色で胎土は黒色粒を含んでいる。太宰府分類のⅢ-1類の資料である。復元口縁9.4cm、復元器高2.5cmを測る。

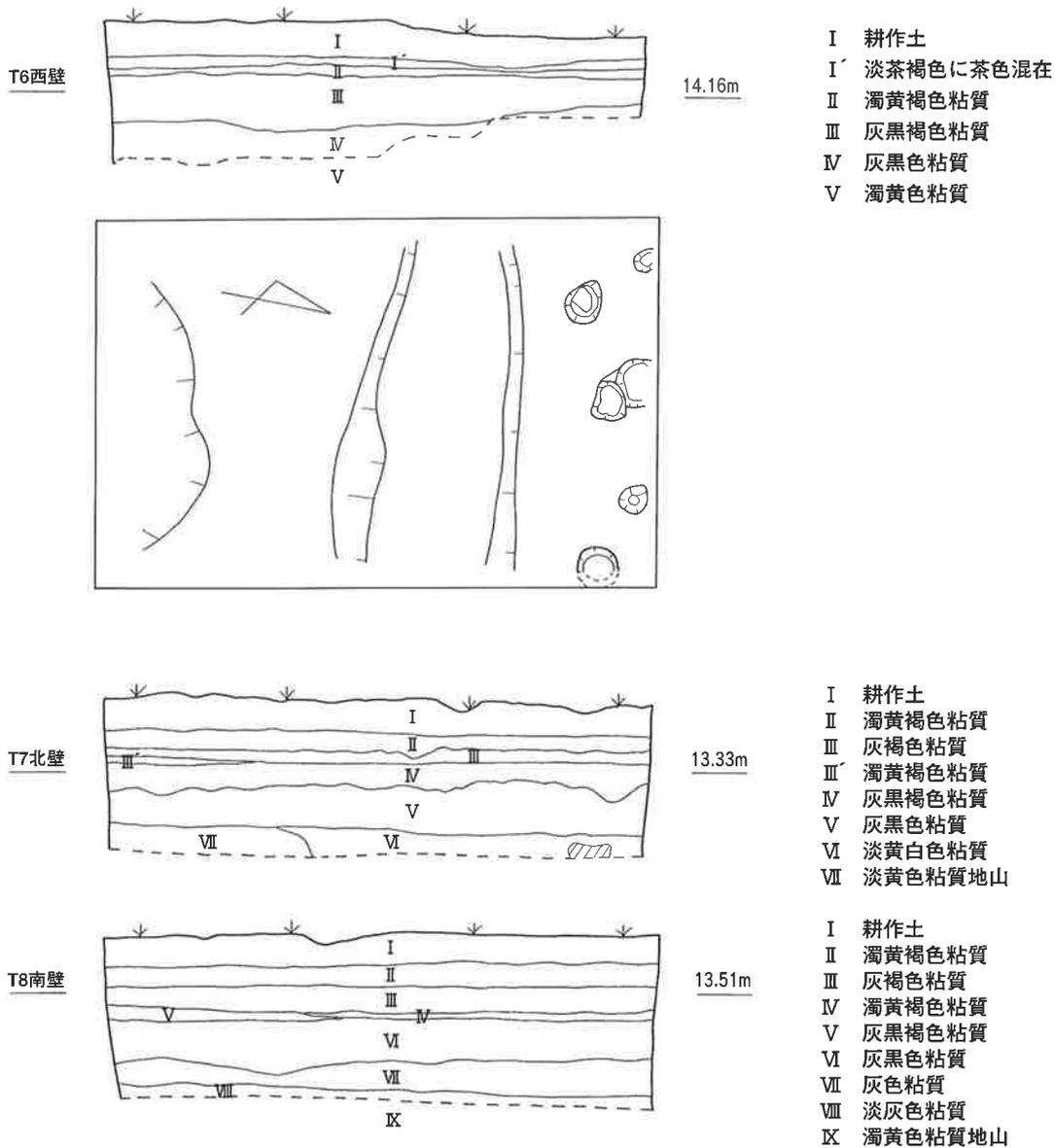
7は青白磁の合子蓋である。片彫り後に明青灰色の釉が施釉されている。胎土は灰色で黒い粒を含んでいる。口径6.0cm、器高1.7cmを測る。

8は体部内面に白土で圈線と円文を象嵌した李朝陶器の粉青沙器である。胎土は灰色である。

9は土師器塚で、鎬連弁文青磁碗を模造している資料である。内面ナデ調整、胎土に石英・長石・雲母を含む。T7Ⅳ層出土。

10は黒色土器Bで内面を燻している。瓦器塚の高台部から底部の資料である。高台は張付けている。T7Ⅳ層出土。

11は、土師器塚で、貼り付け高台を有している。底径6.8cmでT7Ⅴ層出土。



第5図 4次調査区土層・遺構配置図② (1/40)

12は土師器杯である。口径13.6cm、器高4.0～4.1cm、底径8.2cmを測る。内外面ともナデ調整、底部は糸切である。板状圧痕を有している。

13～18は土師器皿である。13は器形の1/4の残存で、口径9.0cm、器高1.2cm、底径6.6cmで糸切底である。T 7 IV層出土。

14も器形の1/4の残存で、口径9.2cm、器高1.2cm、底径6.6cmで糸切底である。T 7 V層出土。底部のみだが黒灰色を呈している。

15も皿である。口径7.8cm、器高1.5～1.7cm、底径5.4cmで糸切底である。T 3 VI層出土。

16は口径9.1cm、器高1.5cm、底径6.6cmで糸切底である。T 3 VI下層出土。胎土に茶色粒あり。

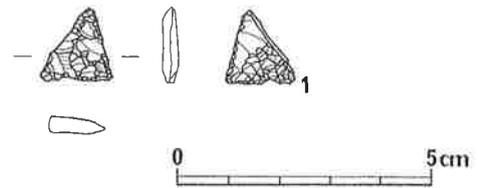
17は口径9.1cm、器高1.1～1.2cm、底径6.0cmで糸切底である。寸詰まりの高台を有している。T 3 VI下層出土。胎土に茶色粒を含んでいる。

18は口径7.8cm、器高1.5cm、底径6.2cmで糸切底である。内外面ナデ調整。

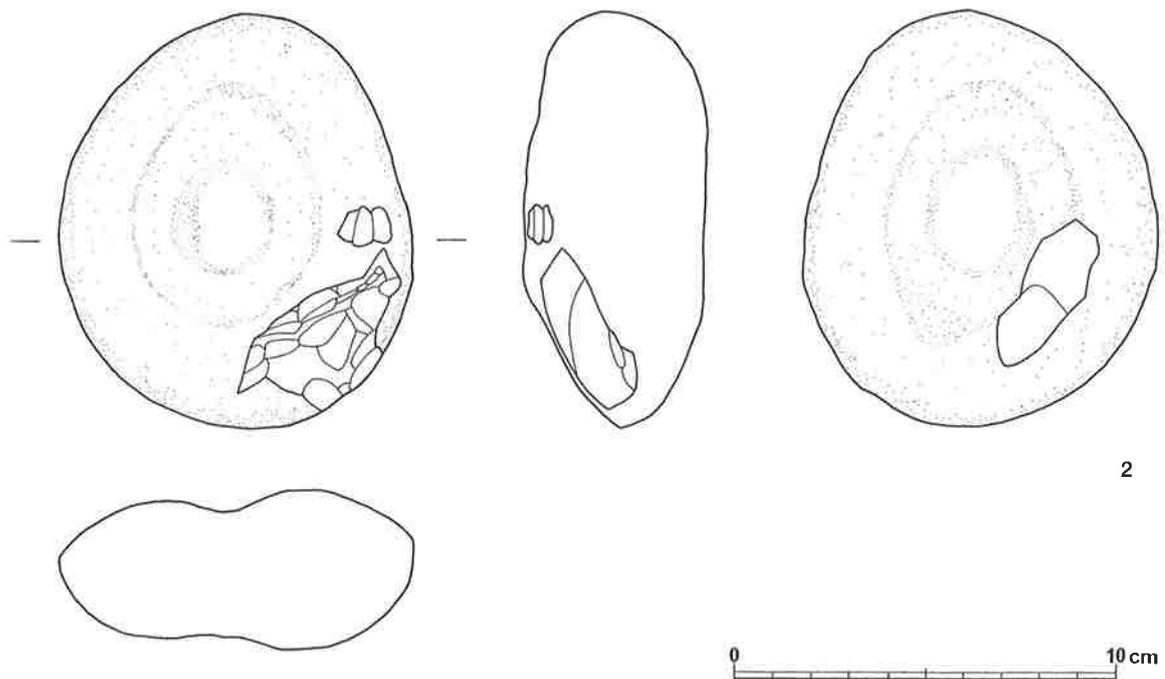
19は東播系須恵質捏鉢で、内外面青灰色を呈し、横位のハケ目調整あり。T 3 VI層出土。

20は捏鉢の底部片である。T 7 IV層出土。内面は使用により摩滅している。外面は粗い調整。底部に当て具痕あり。底径は7.8cmである。

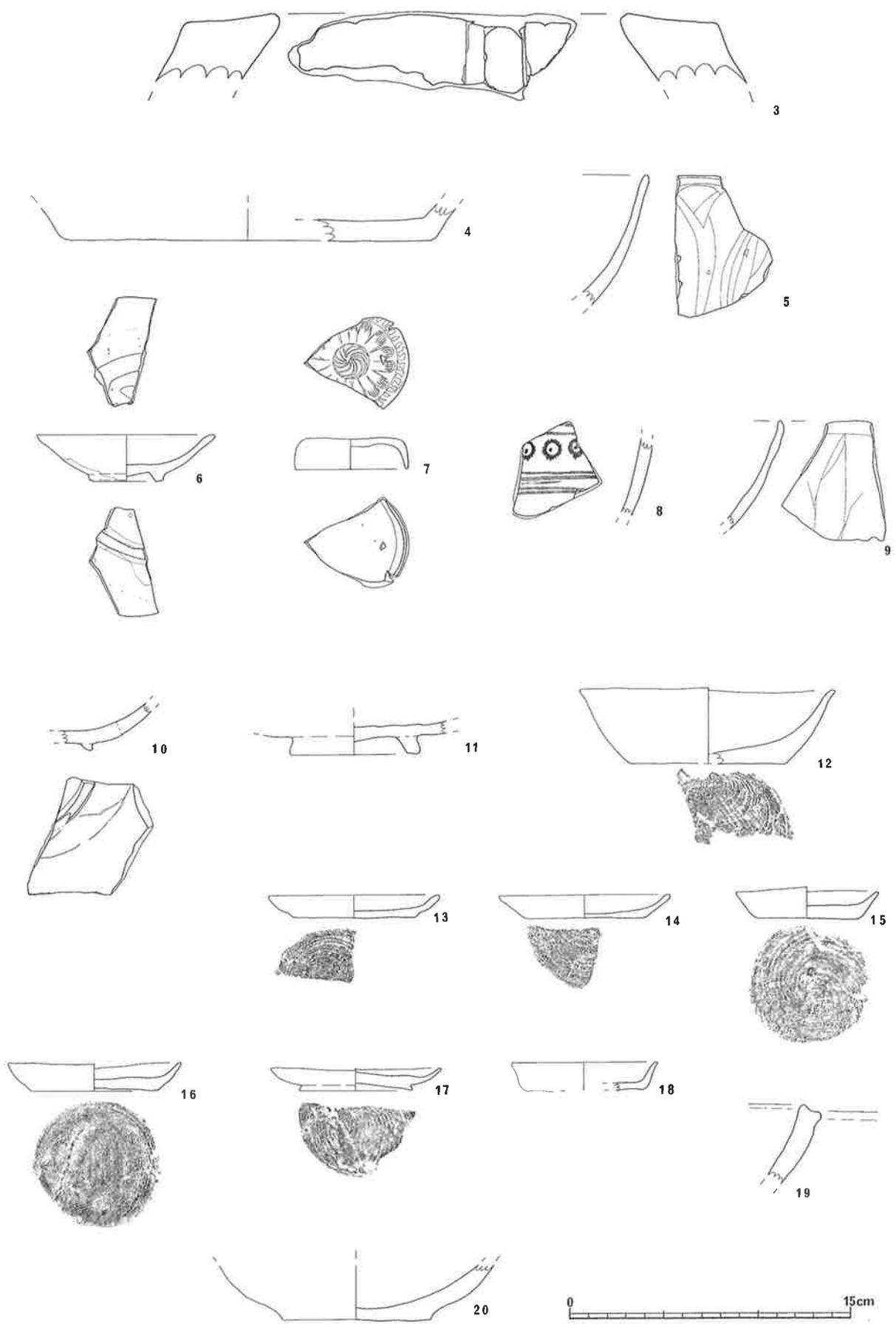
その他の遺物では、細片のため実測できなかったが、青白磁の合子蓋・身、黄釉鉄絵盤、白磁碗のⅡ類・Ⅳ類・Ⅸ類、同安窯系青磁碗・皿の資料が出土している。



第6図 4次調査区出土遺物① (2/3)



第7図 4次調査区出土遺物② (1/2)



第8図 4次調査区出土遺物③ (1/3)

2. 久保園遺跡 (第9図～第13図)

立地 市の中心部を流れる志佐川の右岸河岸段丘上に位置している。遺跡の北側には中世の陣ノ内城跡が、南側には中世の集落跡である宮ノ下り遺跡が位置している。

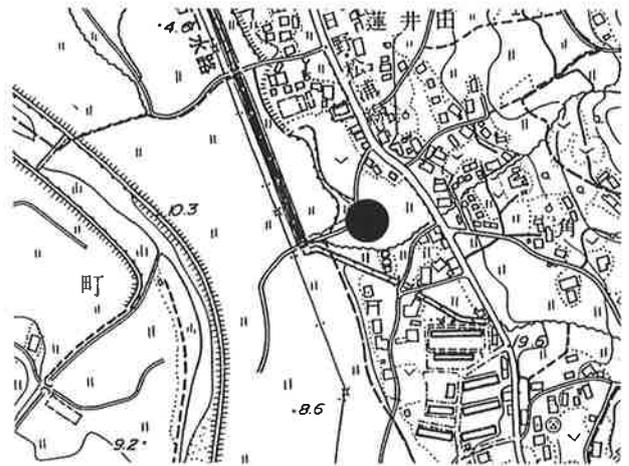
調査 今回の調査は、宅地造成に伴う確認調査で、平成17年度に実施した久保園遺跡の確認調査(第2次調査)及び本調査(第3次調査)を行った地点のすぐ南側に位置する地点である。

調査は7月13日から8月2日にかけて実施した。調査区は2m×3mを6箇所設定し、調査した面積は36㎡である。

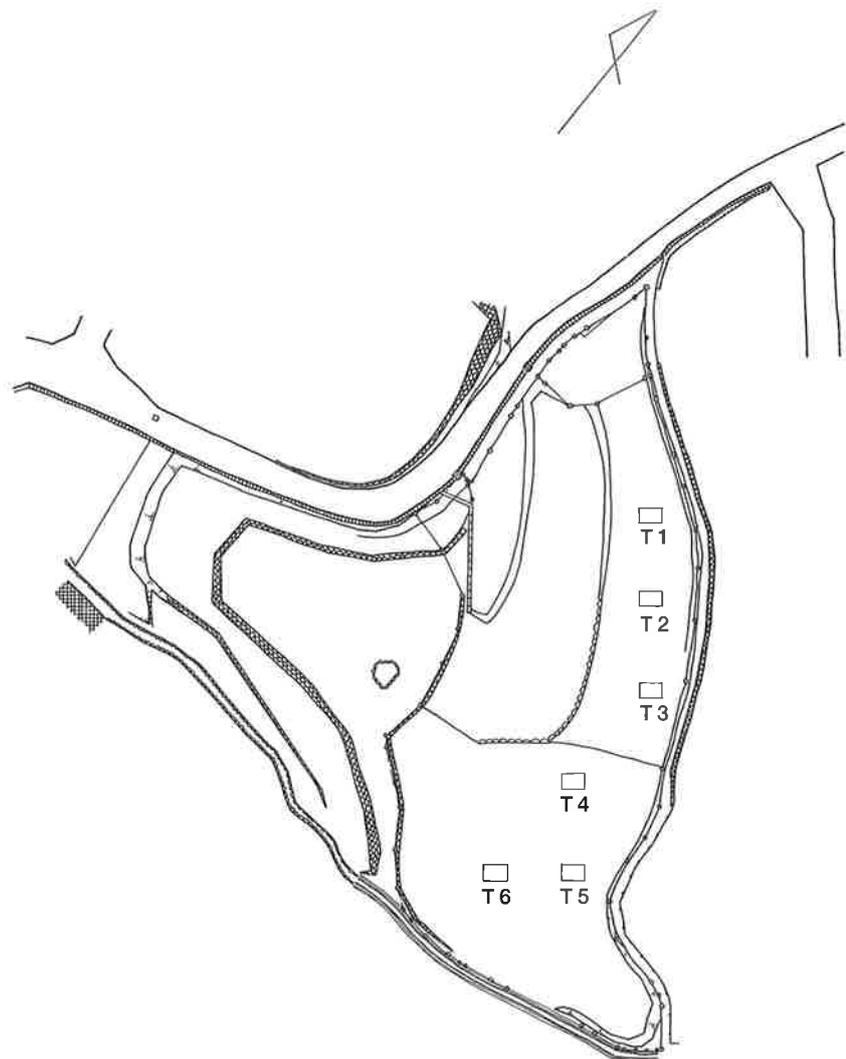
検出遺構 T1区で4個の柱穴を検出している。大きさは径約20cmから35cmで、深度は約5cmから15cmであった。そのうちピット1から弥生土器片と土師器片が、ピット2から土師器片が出土している。その他の調査区では遺構の検出はできなかった。

出土遺物 遺物は総数で1,352点が出土している。実測は細片でできないが土師器の体部に緑釉を施釉している資料が1点含まれている。また、黄褐釉鉄釉盤、白磁碗Ⅳ類の玉縁、同安窯系の皿・碗、東播系須恵質捏鉢、近世から現代の陶磁器類の資料も出土している。遺物は細片が多く実測可能な資料が少なかった。そのうち6点を図示した。

1は黒色黒曜石製石鏃で浅い抉りで一部端



第9図 久保園遺跡位置図 (1/10,000)



第10図 5次調査区設定図 (1/1,000)

部を欠損している。T 3 排土より採集。長さ2.05cm、幅1.25cm、厚み0.3cmを測る。

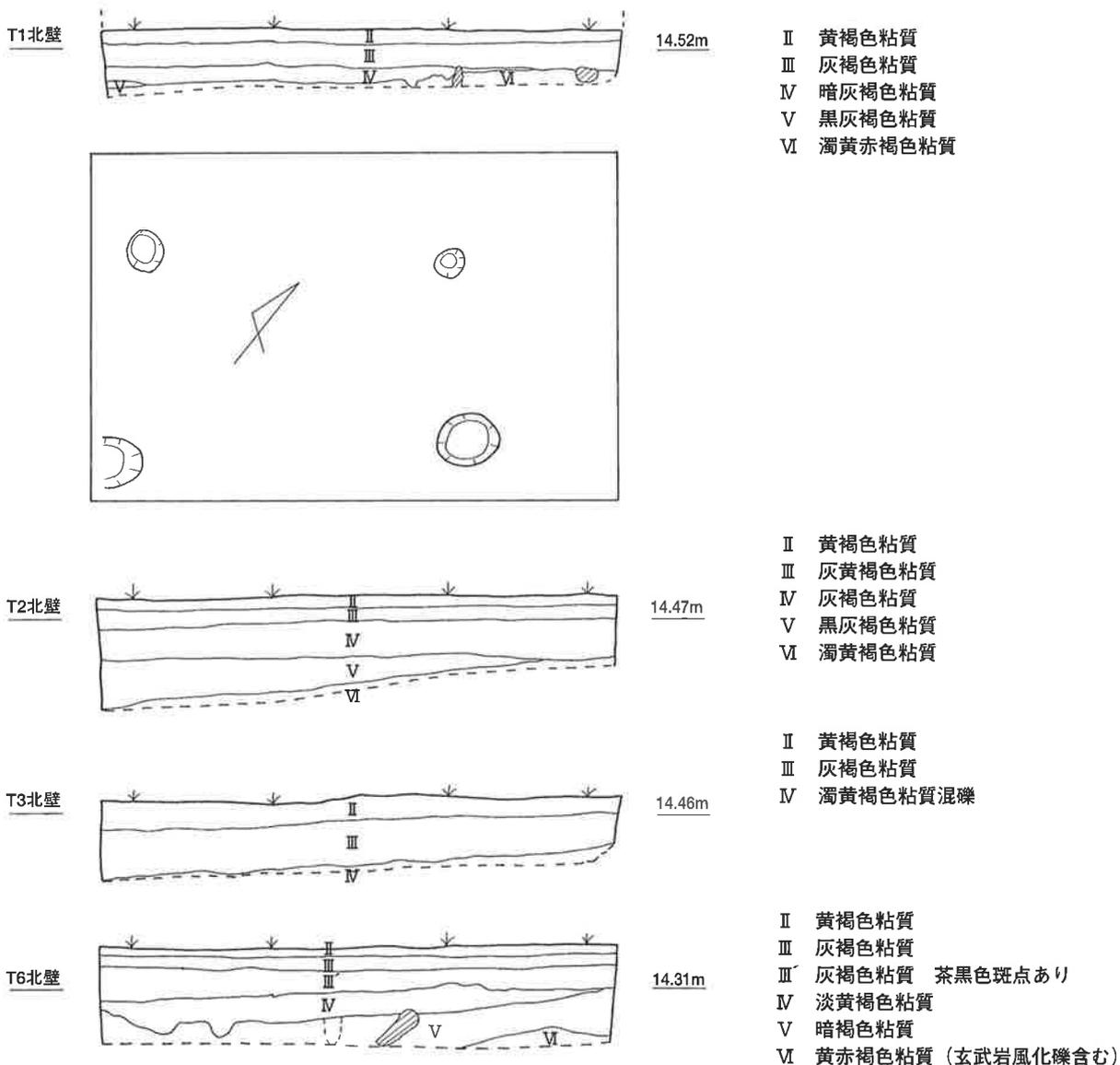
2も黒色黒曜石製石鏃である。T 1 III層出土。先端部の一部を欠損している。長さ1.6cm、幅1.4cm、厚さ0.4cmを測る。

3は安山岩製スクレイパーで、比較的粗い加工が施されている。裏面には自然面を有している。T 2 IV層出土。長さ7.8cm、幅5.0cm、厚さ2.8cmを測る。

4は龍泉窯系青磁碗の高台部の資料である。内面見込みにヘラ彫りの花文を有するI-2類の資料である。釉は淡い緑灰色で、外面高台及び畳付の一部まで施釉されている。胎土は灰白色で、底径5.6cmを測る。T 2 IV層出土。

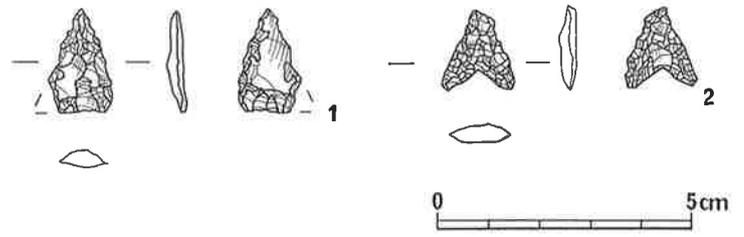
5は白磁碗で、底径6.4cmを測る。釉は灰黄色を呈している。内面見込みが一段凹んでおり、玉縁状になるタイプの底部片である。T 2 IV層出土。

6は土錘である。T 1 III層出土。長さ3.3cm、幅1.1cmを測る細身の紡錘形を呈している。淡い褐色

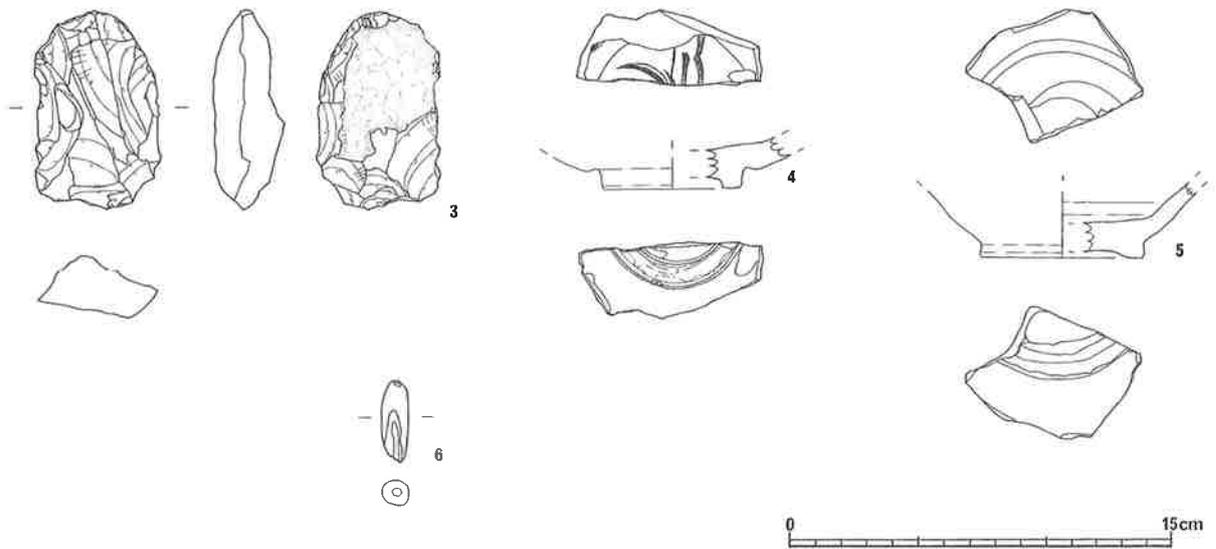


第11図 5次調査区土層・遺構配置図 (1/40)

を呈し、両端を欠損している。



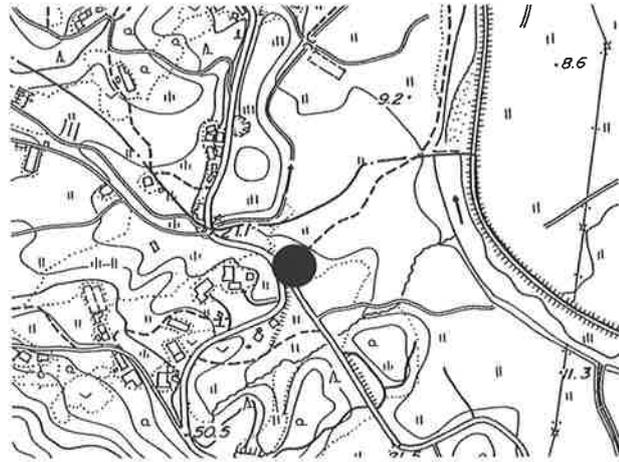
第12図 5次調査区出土遺物① (2/3)



第13図 5次調査区出土遺物② (1/3)

3. 栢ノ木遺跡（第14図～第19図）

立地 栢ノ木遺跡は市の中央部で、志佐川下流域の左岸と志佐川の支流である佐々山川流域の水田地帯に位置している。遺跡は東西約600m、南北約900mの広範囲に分布しているが、16年度（19次調査）・17年度（20次調査）の栢ノ木遺跡の確認調査でも遺跡の範囲が北側に分布していることが確認されている。栢ノ木遺跡から志佐川を挟んだ対岸には古墳時代と中世の集落跡である宮ノ下り遺跡、弥生時代の集落跡と墓跡がある久保園遺跡・中世の平山城である陣ノ内城跡が立地している。



第14図 栢ノ木遺跡位置図（1/10,000）

調査 第21次調査は19・20次に調査した地点の北側に走る農道を挟んでその北側の水田地帯を確認調査の範囲とし、調査地点は志佐町栢木免と庄野免の免境を中心に実施した。この地点は新たに広がり確認された地区の西側での分布状況を確認するものである。調査は平成19年2月27日から3月13日にかけて実施し、2m×4mの調査区を9箇所設定し、72㎡を調査した。

検出遺構 弥生期の柱穴をT1区・T2区から検出している。

T1区では、茶褐色粘質土層のⅢ層から地山の濁黄赤褐色玄武岩風化土層に掘り込んだ柱穴を15個検出した。径は15cm～30cm大、覆土は灰黒褐色粘質であった。ピット1・ピット4・ピット7から土師器片が、ピット2から弥生土器片が、ピット3・ピット4からは黒曜石製石核が出土している。

T2区では、Ⅲ層の灰黒褐色粘質土層は弥生期の土器・石器及び中世期の遺物が出土しており、Ⅳ層の黄赤褐色粘質土層は弥生期の遺物が出土している。柱穴はこのⅢ層とⅣ層から5個検出している。ピット1から弥生土器片、ピット2から土師器片、ピット3からは袋状口縁を持つ弥生土器片6点と土師器4点とともに黒曜石製剥片・碎片、安山岩製碎片の13点が出土している。

なお、T1・2区は埋土の中に赤褐色のレンガ・現代の陶磁器・ガラス製品が含まれており、造成の跡がうかがえた。

T3・4区では耕作土の下は攪乱を受けていたが、T3区で5個の柱穴を検出した。T4区では12個の柱穴を検出している。

T7区は耕作土の下はすべて埋土で覆われており、弥生期の包含層があったものと思われる。

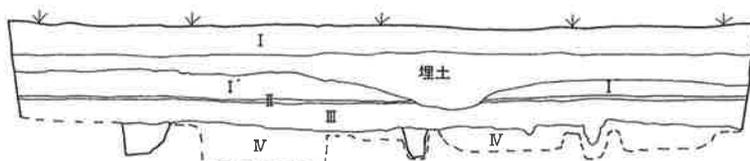
出土遺物 出土している遺物の総数は、2,324点である。

調査地点は、かつて松浦市が炭鉱で栄えていたころ



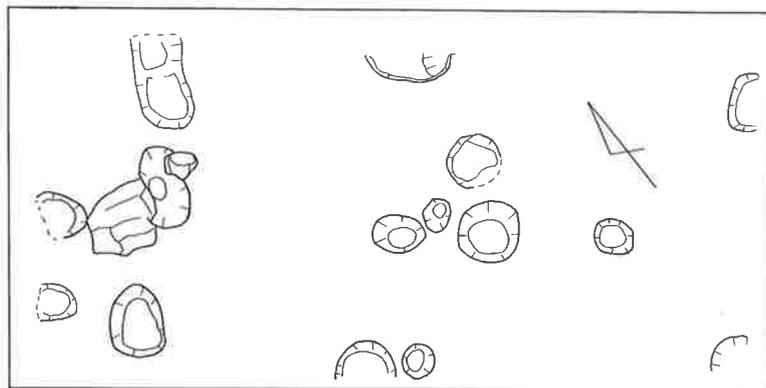
第15図 21次調査区設定図（1/1,500）

T1北壁

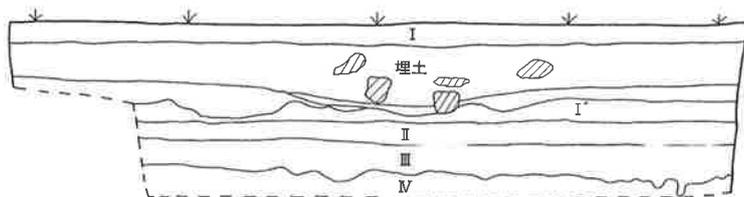


19.11m

- I 耕作土
- I' 旧耕作土
- II 旧床土
- III 茶褐色粘質
- IV 濁黄赤褐色粘質
玄武岩風化礫含心

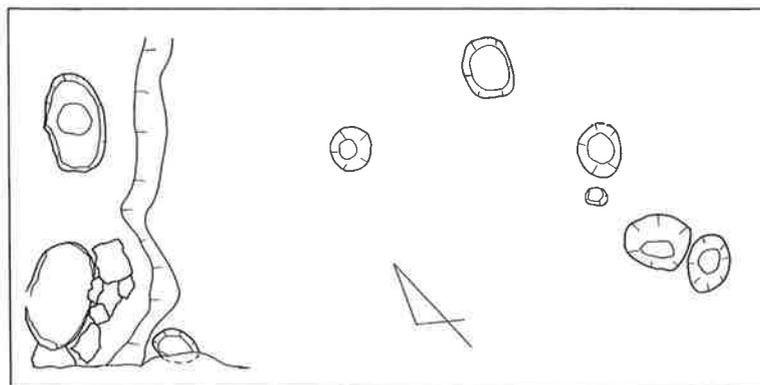


T2北壁

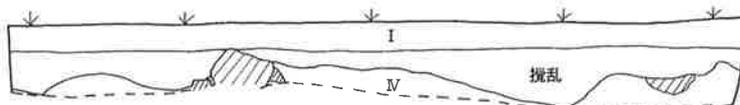


18.93m

- I 耕作土
- I' 旧耕作土
- II 旧床土
- III 灰黑褐色粘質
- IV 黄赤褐色粘質

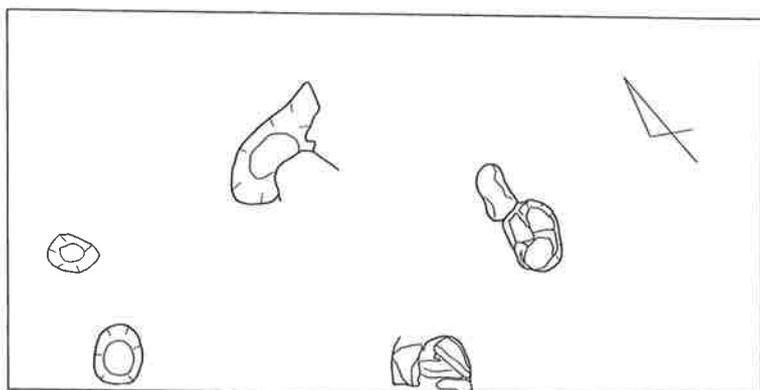


T3北壁



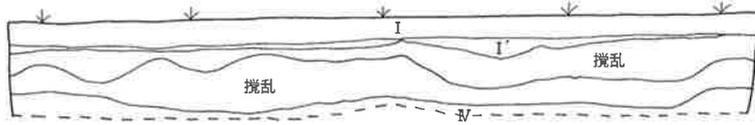
19.32m

- I 耕作土
- IV 黄褐色粘質
玄武岩風化礫含心



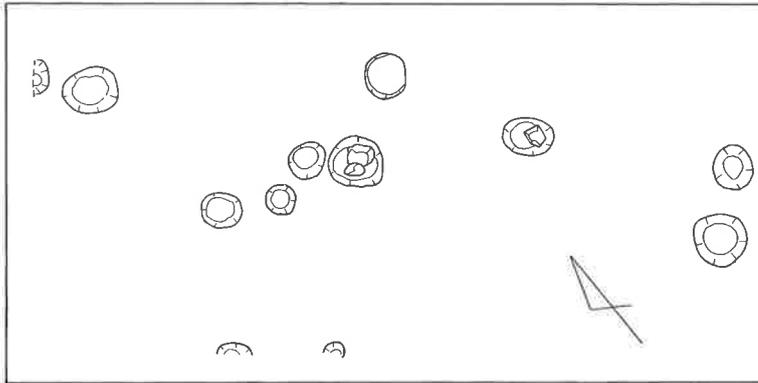
第16図 21次調査区土層・遺構配置図① (1/40)

T4北壁

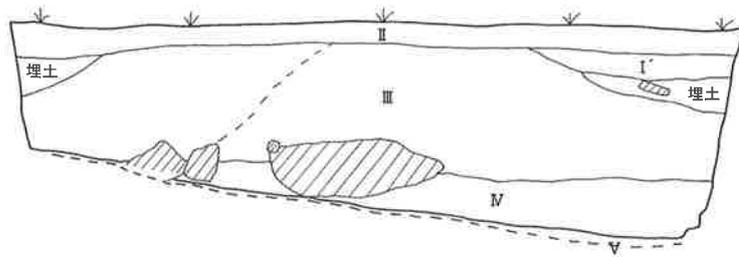


19.06m

- I 耕作土
- I' 床土
- IV 黄褐色粘質
- 玄武岩風化礫含む

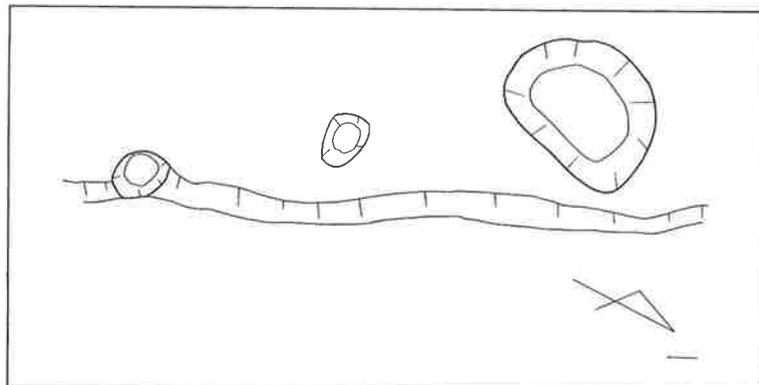


T5西壁

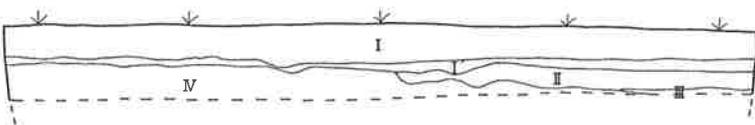


23.41m

- I 耕作土
- I' 黄灰褐色粘質
- III 茶褐色粘質
- IV 暗茶褐色粘質
- V 淡濁黄褐色粘質
- 玄武岩風化礫含む



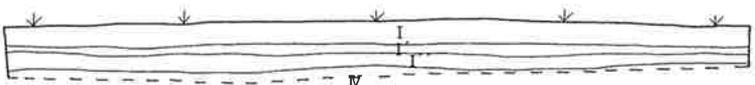
T8北壁



21.22m

- I 耕作土
- I' 床土
- II 灰黄褐色
- III 褐色粘質
- IV 灰黑褐色粘質

T9北壁

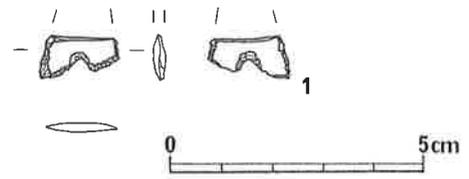


21.67m

- I 耕作土
- I' 耕作土
- I'' 床土
- IV 灰黑褐色粘質

第17图 21次調査区土層・遺構配置図② (1/40)

の昭和20年代から30年代に炭鉱労働者の住宅があり、多くの住民が住んでいたとのことであった。その証としてT1区でトイレ用の埋甕を2基検出している。また、レンガ造りの建物があり、葉ピン等が多数出土していることから病院に関する施設が、T1～T4区の調査区周辺に所在していたと思われる。



第18図 21次調査区出土遺物① (2/3)

1は磨製石鏃で黒色黒曜石製である。先端部と両脚部を欠損。T1 IV層出土。現存長0.85cm、幅1.6cm、厚みは0.25cmを測る。

2は鏝を有する滑石製石鍋である。鏝の作り出しも小さく幅も狭い。口縁直上を平坦に仕上げている。外部に一部煤の付着をみる。

3は青白磁合子身である。T1 II層出土。蓋受部と外面蓮子から下位には施釉されていない。釉は青色味を帯びた白色の釉で胎土は白色である。

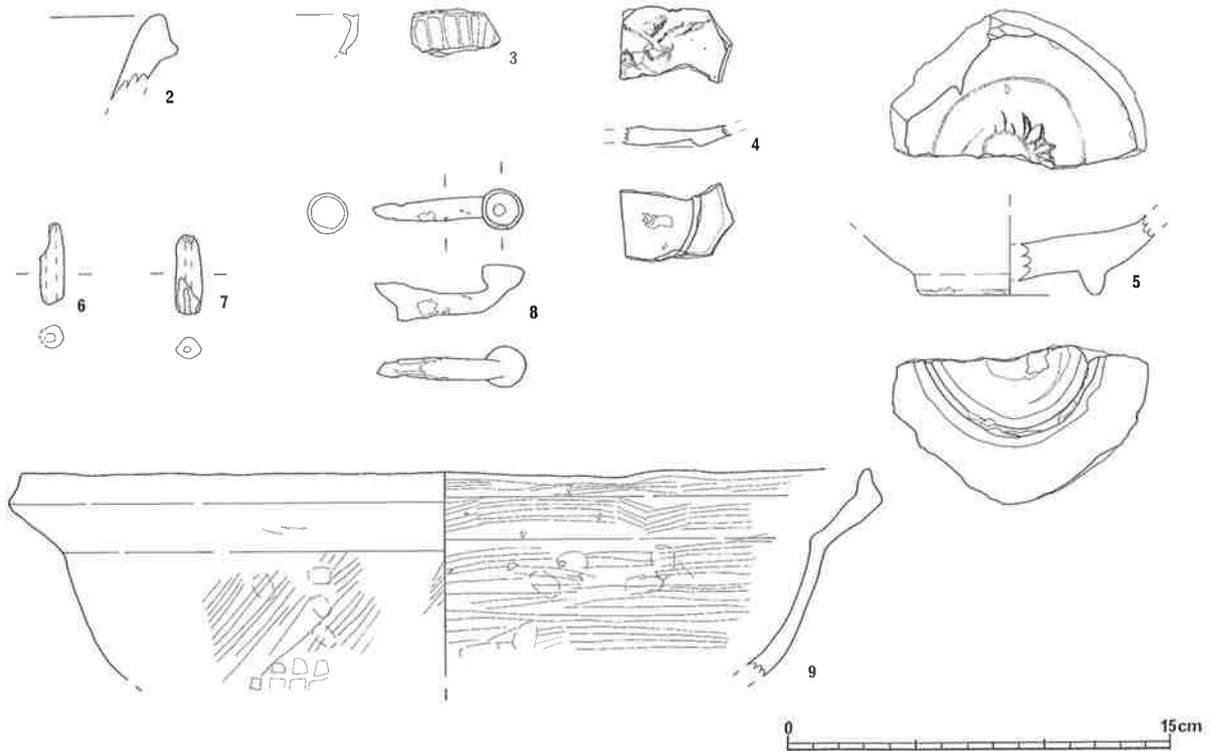
4は青磁碗である。T5 III層出土。内面見込みに花文をスタンプし、中央が凹んでいる。釉は内外面ともオリーブ色で全体に薄く外面高台まで施釉されている。高台径6.8cm、底径6.8cm、残高3.2cmを測る。

5は明染付基筒底である。内面見込みに呉須で文字を有している。黄白色の釉が施されている。

6・7は紡錘形土錘である。6はT8 I層出土。7はT5埋土出土である。

8は煙草管の雁首である。T7埋土下出土。

9は須恵質捏鉢で、口縁端部を上方に摘み上げている。内面横位のカキ目、内面体部格子目叩き痕を有している。



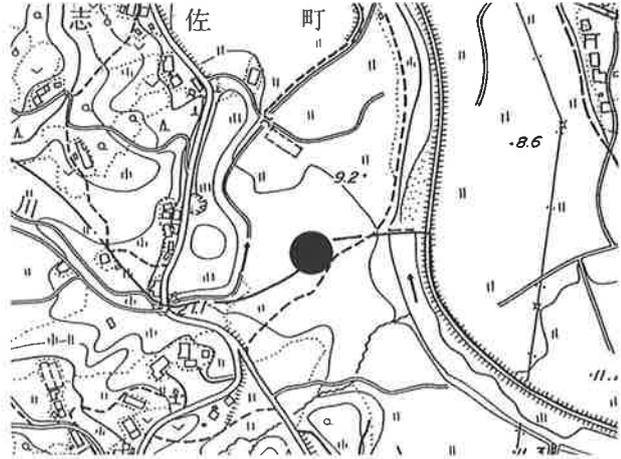
第19図 21次調査区出土遺物② (1/3)

第IV章 平成19年度確認調査の概要

ここでは、平成19年度において国庫補助を受けて確認調査を実施した栢ノ木遺跡について、その調査を以下に概説する。

1. 栢ノ木遺跡（第20図～第32図）

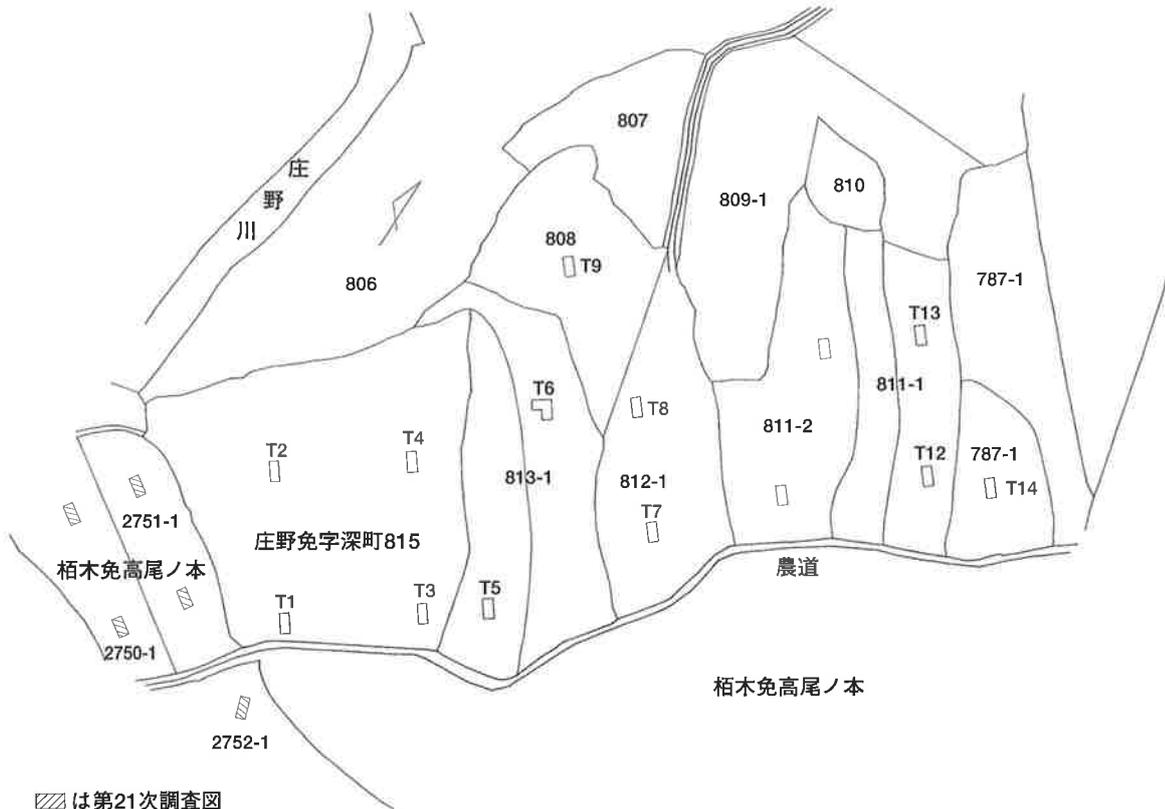
立地 栢ノ木遺跡は松浦市内中央部を流れる志佐川西部の河岸段丘から佐々山川、庄野川流域の沖積平野に広がる水田地帯にかけて所在している。対岸には宮ノ下り遺跡、久保園遺跡等が所在する。遺跡の所在するこの地域は松浦市役所から直線距離で1.5km程しか離れておらず、大型公共施設建設等の候補地にまずあげられる地域でもあり、長崎県の重要遺跡でもあるため範囲確認調査を実施している。そのため、栢ノ



第20図 栢ノ木遺跡位置図 (1/10,000)

木遺跡ではこれまでに本調査や確認調査等合わせて21回に及ぶ調査が行われている。

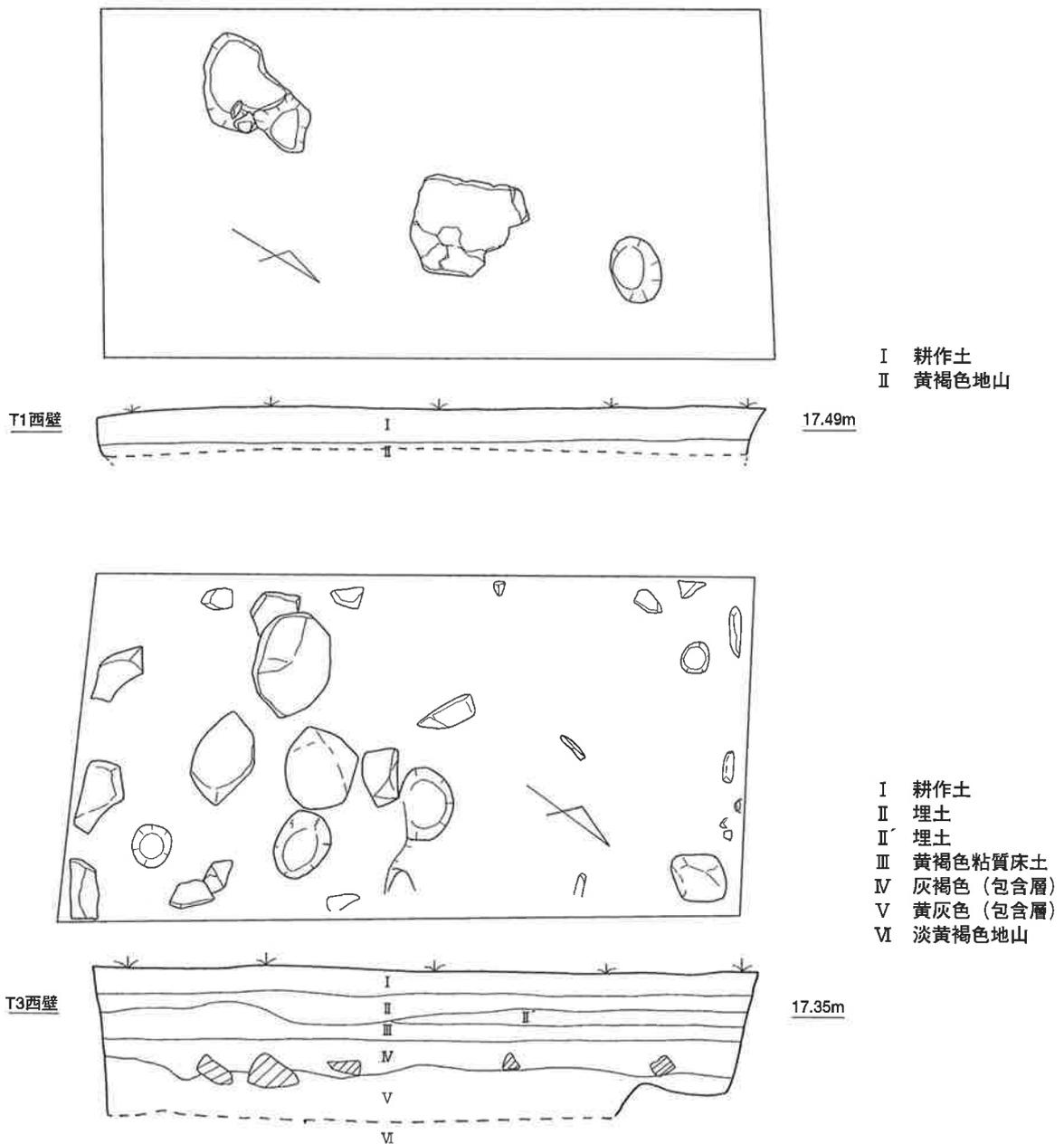
調査 今回の栢ノ木遺跡の調査は、第22次にあたる。調査区は2m×4mを基本に西側から東側へ調査区を14箇所設定した。最終的に調査面積は合計116㎡となった。調査は平成20年2月21日



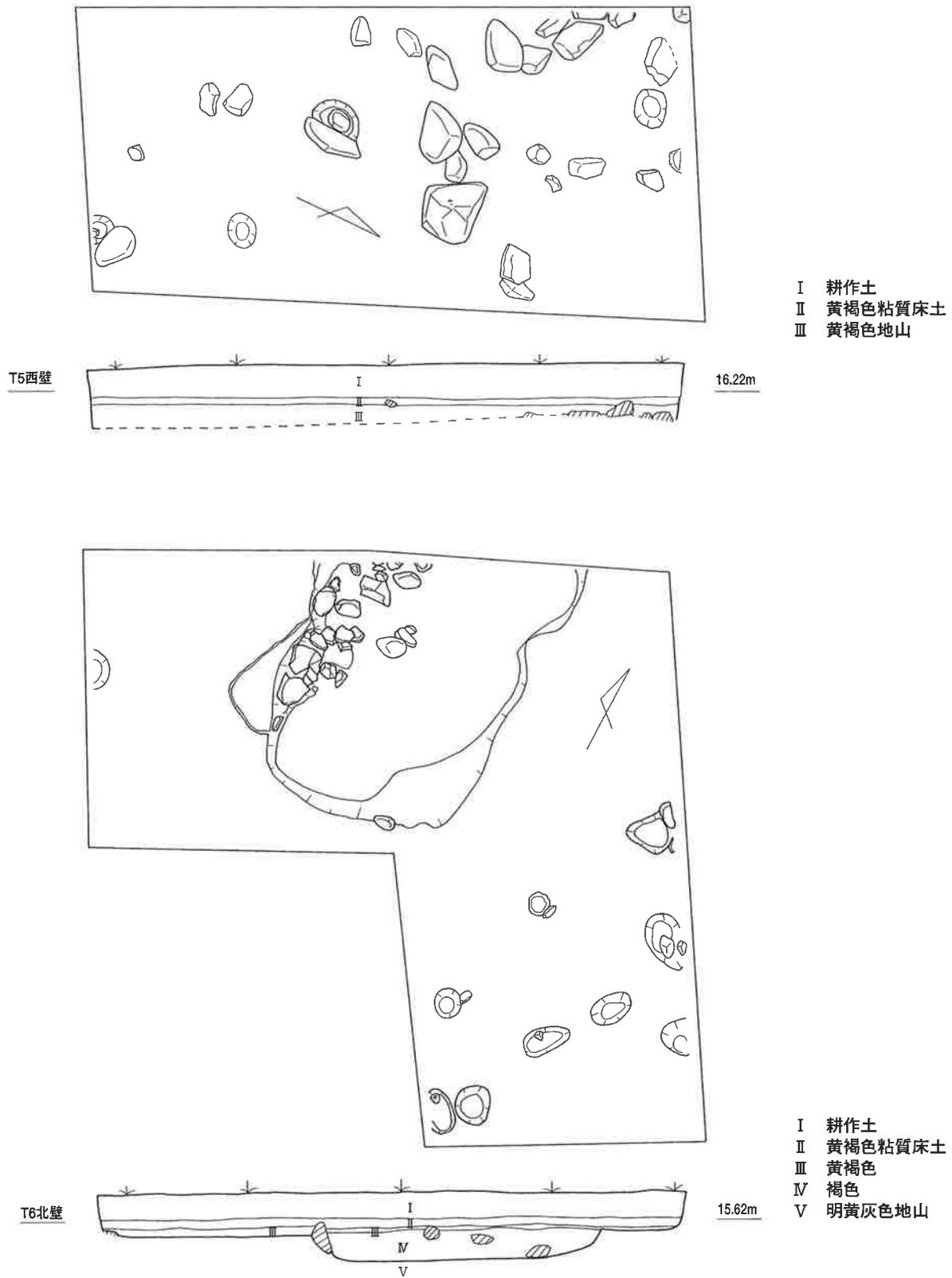
第21図 22次調査区設定図 (1/1,500)

から3月27日まで実施した。調査区周辺は、かつては狭い棚田で水田耕作が行われていたが、農作業の機械化により水田の面積を広げるための区画整理が行われてきていることが、今回の調査によっても示されている。

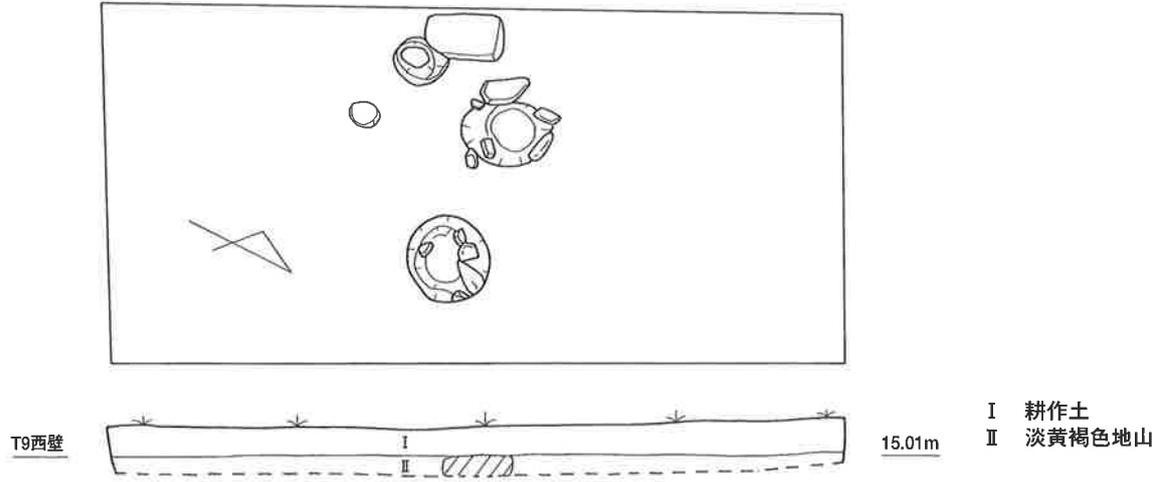
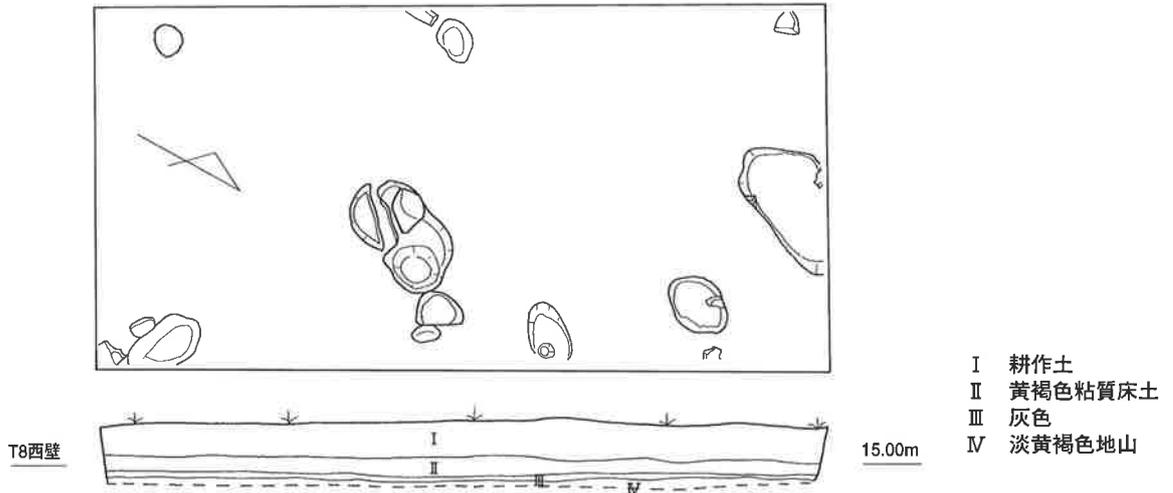
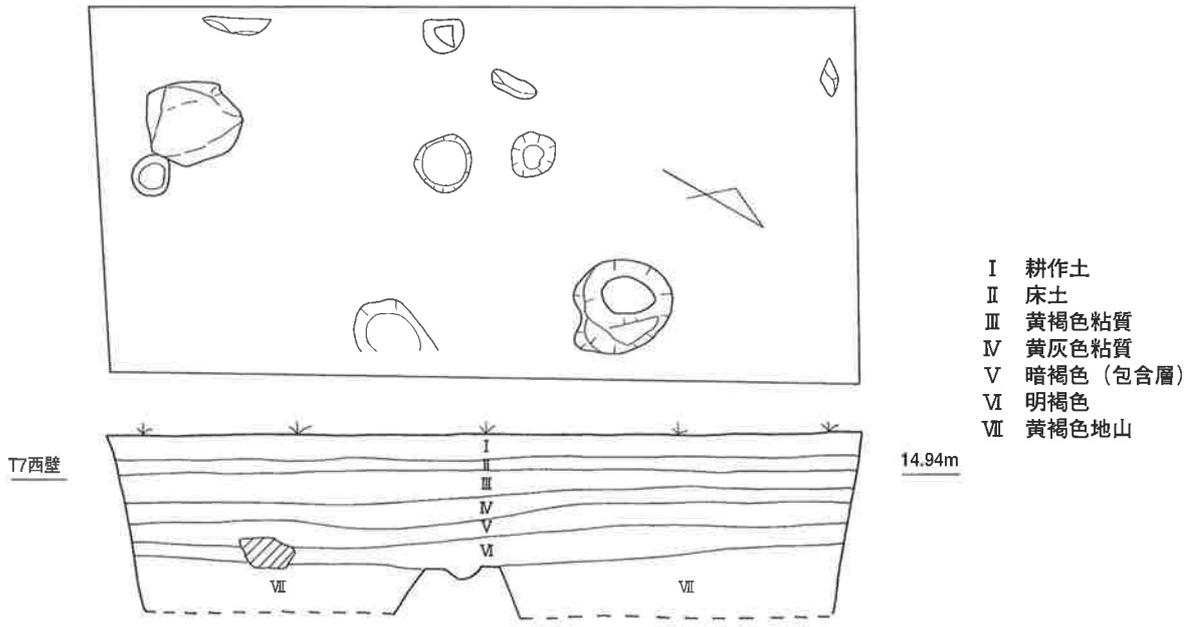
遺構 T1区は遺物包含層が削平されて耕作土の直下に明黄褐色の地山が現れ、ピットを2箇所検出しており、ピット1からは滑石の小破片が1点出土している。T2区はI層耕作土、II層黄褐色粘質の床土、III層明黄褐色の地山となり、遺構は検出しなかった。T3区の土層は耕作土の下に2つの層の埋土、その下から以前の水田の床土、更にその下のIV～V層の包含層が残っており、弥生期の遺物が出土している。遺構は4つのピットを検出している。T4区では、I層耕作土、II層埋土、III層黄褐色粘質、IV層黄褐色の地山という土層の状況で、狭い田を幾つかまとめて1枚の田にした跡であ



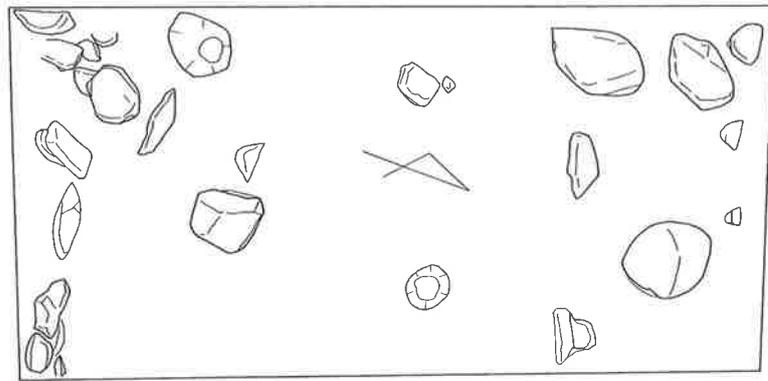
第22図 22次調査区土層・遺構配置図① (1/40)



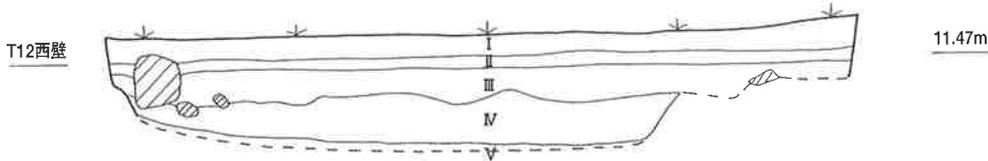
第23图 22次調査区土層・遺構配置図② (1/40)



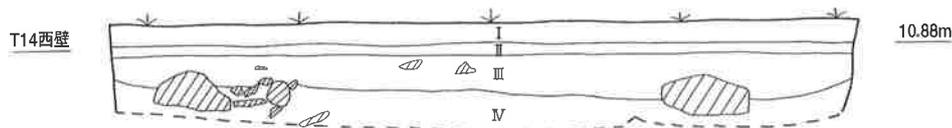
第24图 22次調査区土層・遺構配置図③ (1/40)



- I 耕作土
- II 黄褐色粘質床土
- III 褐色
- IV 赤褐色
- V 黄褐色地山



- I 耕作土
- II 黄褐色粘質床土
- III 褐色
- IV 暗褐色

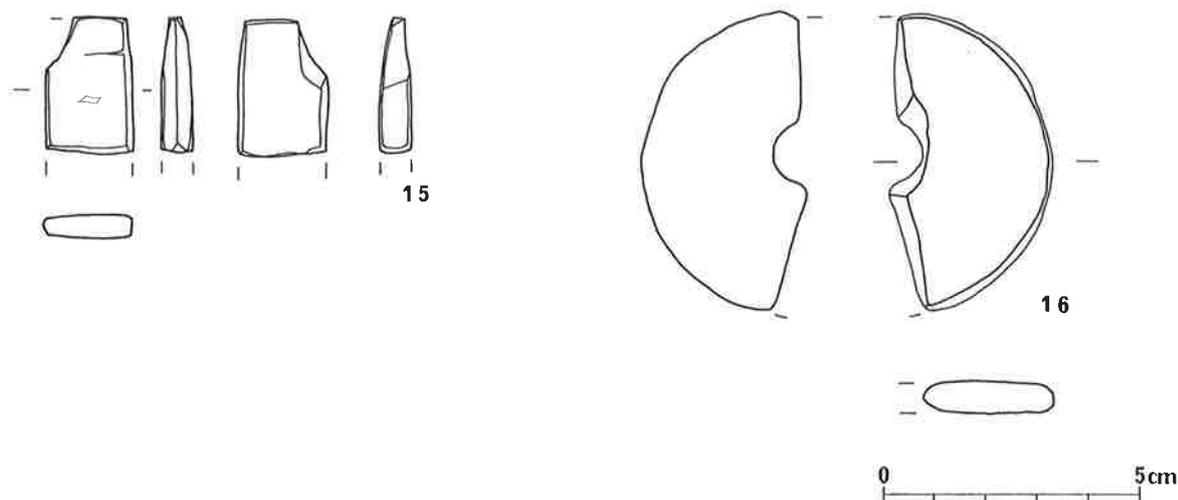


第25図 22次調査区 土層・遺構配置図④ (1/40)

る田の境の石垣を検出しており、遺構は検出していない。T 5区では、ピットを4箇所検出しており、径約35cmのピット3から弥生土器片2点が出土し、ピットの底と側面に石をはめ込んでいる様子が検出されている。ピット3の覆土は灰褐色であった。T 6区からは半径約1.8m深さ約20cmの土壌を検出している。覆土は黄灰色土混じりの褐色土で一部に拳大～人頭大の礫が集中して入り込んでおり、礫の間から甕形土器が出土しているが、土壌の性格については住居址の可能性もあるが不明な点が多く、さらに北側に拡がるとみられ詳細な分析については今後の調査の結果を待ちたい。また他にも土壌に関連するのか、ピットを10箇所検出している。土層の状況は、I層耕作土、II層黄褐色粘質床土、III層黄褐色、IV層褐色、V層淡黄灰色の地山であった。T 7区からはピット6箇所を検出している。土層の状況は、I層耕作土、II層埋土、III層黄褐色粘質（以前の水田の床土）、IV層黄灰色粘質、V層暗褐色（包含層）、VI層明褐色、VII層黄褐色地山である。T 8区はI層耕作土、II層黄褐色粘質床土、III層灰色、IV層淡黄褐色の地山という土層の状況で、9箇所のピットを検出している。T 9区は区画整理の影響でI層耕作土の直下が淡黄褐色の地山となっているが、地山を掘り込んだピットを4箇所検出しており、その内のピット1から縄文土器が出土しており、同時に直径1cmほどの炭化した果実が少量であるが出土している。T 12区では、土層がI層耕作土、II層黄灰色粘質床土、III層褐色、III'層褐色混礫（攪乱）、IV層赤褐色、V層黄褐色の地山となっており、ピットを2箇所検出している。T 13区は埋土や攪乱層が重なっており、数回にわたって土地改良が行われている状況を示している。



第26図 22次調査区出土遺物① (2/3)



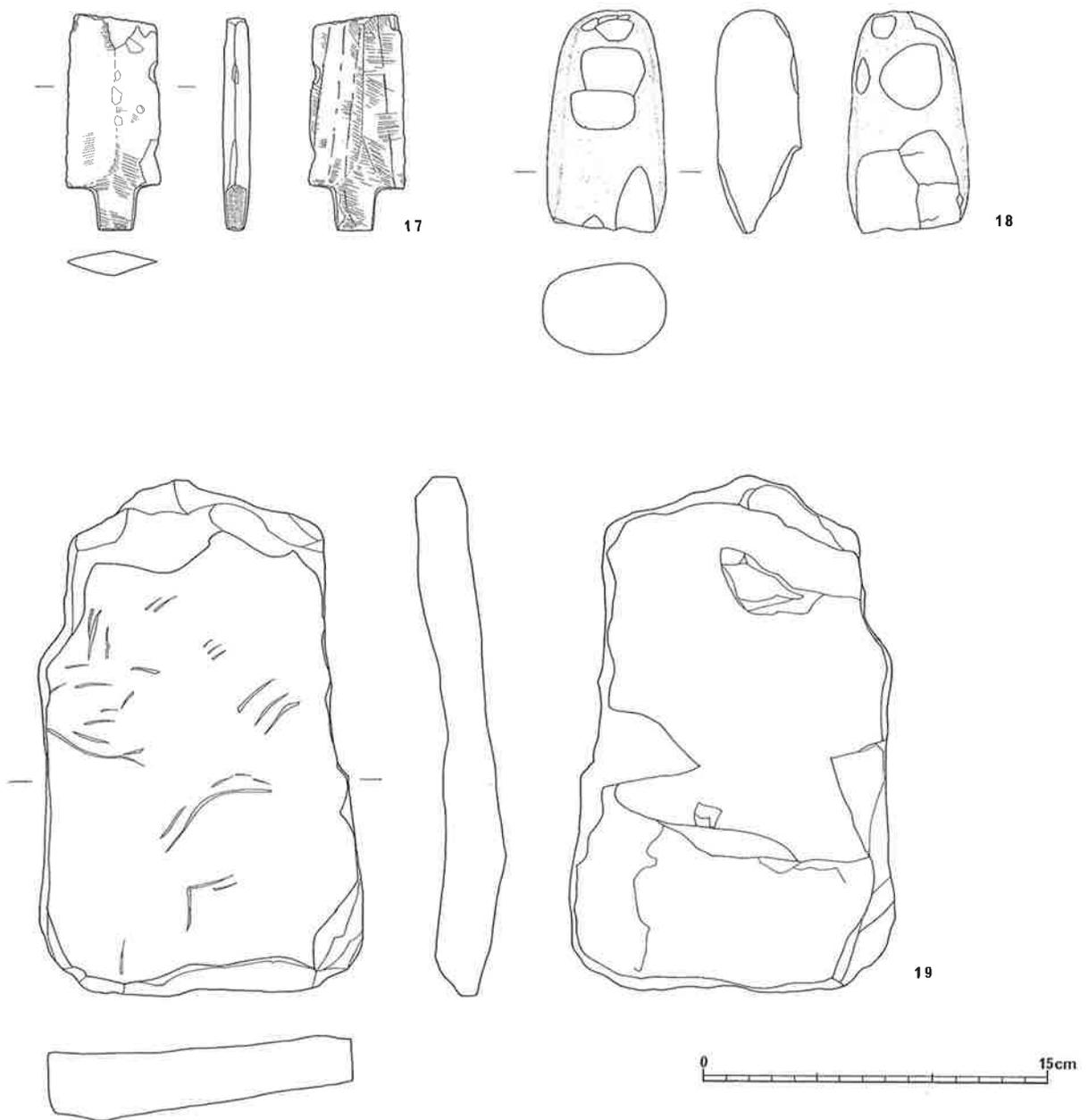
第27図 22次調査区出土遺物② (2/3)

遺構はピットを5箇所、不成形な落ち込みを1箇所検出している。T14区では、土層がⅠ層耕作土、Ⅱ層黄褐色粘質床土、Ⅲ層褐色、Ⅳ層暗褐色のところ、発掘調査の時間の関係上、精査途中で終了せざるを得なかった。

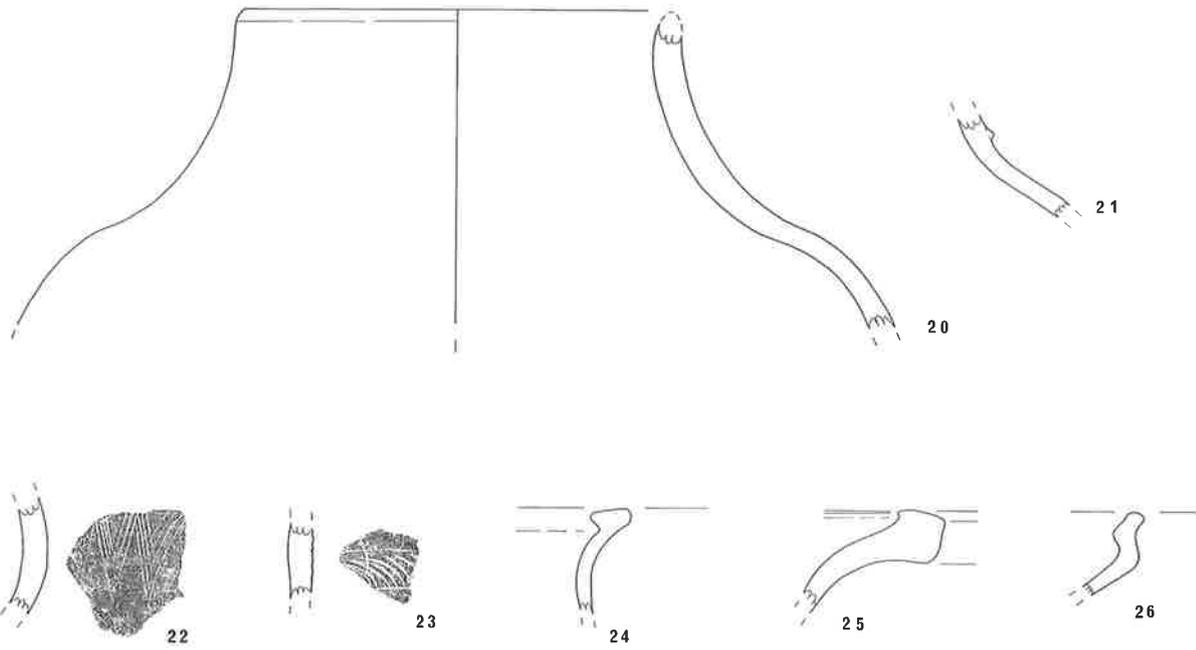
遺物 1～13の石材は黒曜石である。1は大型の横長剥片を使用した、側縁加工が主要剥離面からと背面の両方から施されている台形石器である。刃部が欠損しており、基部に一部自然面が残っている。T4Ⅲ層出土。2は基部がUの字に深く抉られた鋏形の凹基無茎鏃である。緻密に調整剥離されており、器形は二等辺三角形を呈している。先端部が欠損している。T10Ⅱ層出土。3は鋸歯状に調整剥離し、基部がUの字に抉られた凹基無茎鏃である。先端部と一方の脚部が欠損している。T3Ⅳ層出土。4～10は抉りの浅い凹基無茎鏃である。4は側縁部から先端部にかけてやや丸みを帯びており、器形は二等辺三角形を呈している。T14Ⅲ層出土。5は先端部と一方の脚部の一部が欠損しているが、本来は正三角形を呈していたと推測される。T11Ⅰ層出土。6・7についても先端部と脚部の一部が欠損しているが、正三角形であったと考えられる。それぞれT14Ⅲ層・T13Ⅲ層出土。8は丁寧な調整剥離を施しているが、両脚部の先端が欠損している。T12Ⅲ層出土。9は小型の石鏃で先端部と脚部の一部を欠損している。T7Ⅳ層出土。10は小型の部分磨製石鏃で、擦痕が顕著に認められる資料であるが先端部が欠損している。T7ピット1内出土。11は基部の尖った柳葉形の石鏃で、長さ2.5cm・幅1.23cm・厚さ0.6cmである。T12Ⅲ層出土。12は円基鏃。T13Ⅲ層出土。13は先端部が欠損しているが、石槍と思われる。T14Ⅲ層出土。14は頁岩の片刃扁平石斧と思われるが刃部を含む下半分が欠損している。T11Ⅲ層出土。15は砂岩製の片刃の石鑿と思われるが、刃部を含む下半分が欠損している。T13Ⅲ層出土。16は縄文土器の破片を転用した紡錘車と思われる。表裏の両面から中央に穴を穿ってある。全体の約半分ほどが欠損している。松浦市では初見である。復元径は約10cmである。T14Ⅲ層出土。17は凝灰岩質粘板岩製の磨製石剣である。上半分の切先部分が欠損しており、断面は菱形で中央に鎬を有する。表面は風化・剥落が著しく、研磨痕が部分的に残っている。T

13IV層出土。18は砂岩製の磨製石斧である。表面の風化が著しく、刃部が大きく欠損している。T 14Ⅲ層出土。19は砂岩製の大型の磨石で、砥石とも考えられる。板石に転用されたものか。T 6 土壌内出土。

20は甕の口縁部で、内面が10YR8/4浅黄橙色、外面は7.5YR7/4鈍い橙色を呈する。胎土に石英・長石・小礫を含む。なお、外面に2.5YR5/6明赤褐色の丹塗りの痕が残っている。T 13Ⅲ層出土。21は甕の肩部で1条の貼付突帯を持つ。内面は10YR6/4鈍い黄橙色、外面は2.5YR5/8明赤褐色を呈する。胎土に長石・石英・雲母・黒曜石を含む。T 4Ⅲ層出土。22は壺の胴部の小破片である。篋描きの綾杉文が施されている。色調は内面が10YR8/6黄橙色、外面が7.5YR7/6橙色を呈する。胎土に長石・赤色粒子・砂礫を含む。T 12Ⅲ層出土。23は篋描きの斜位連弧文の文様が施されている。色調

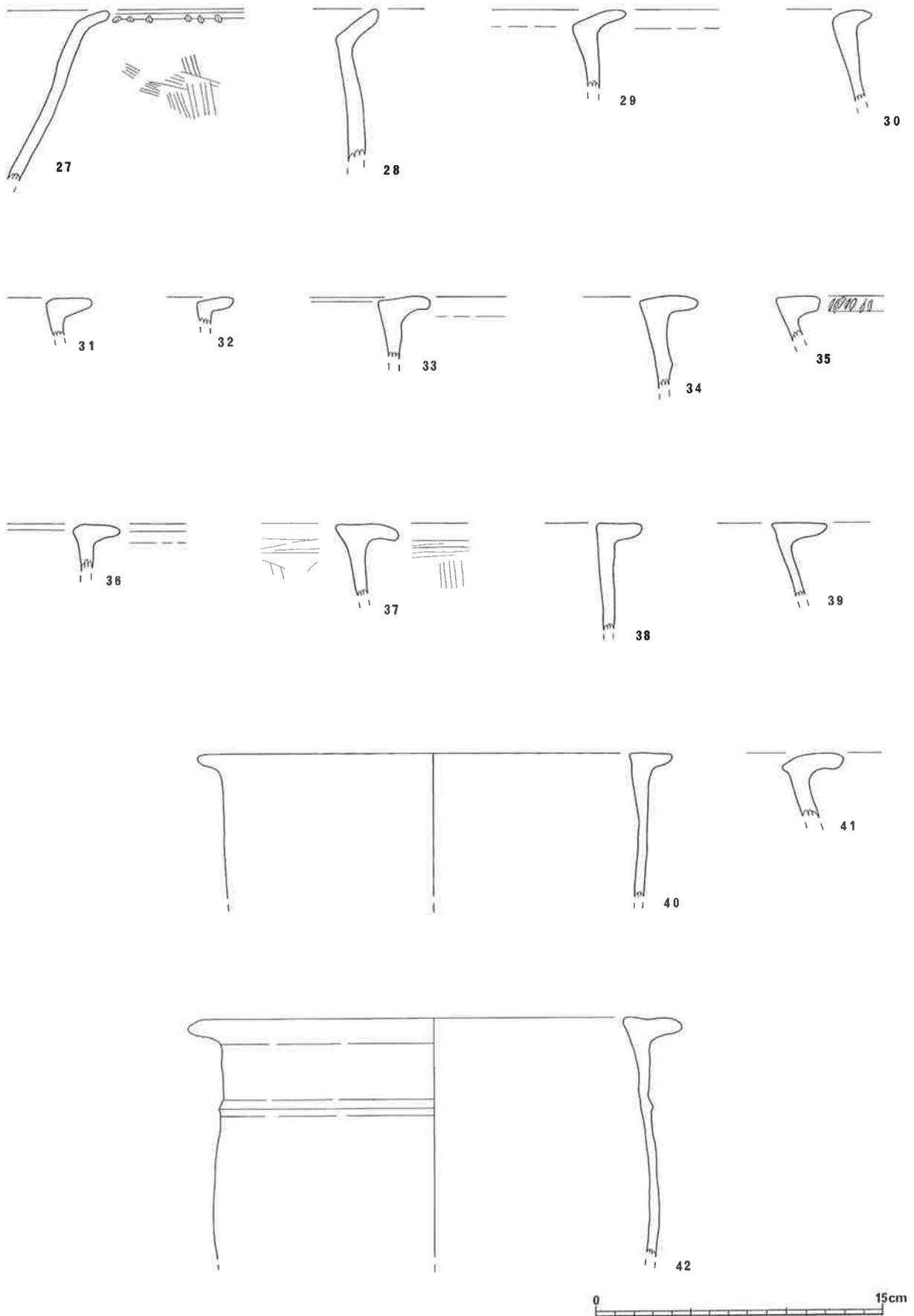


第28図 22次調査区出土遺物③ (1/3)

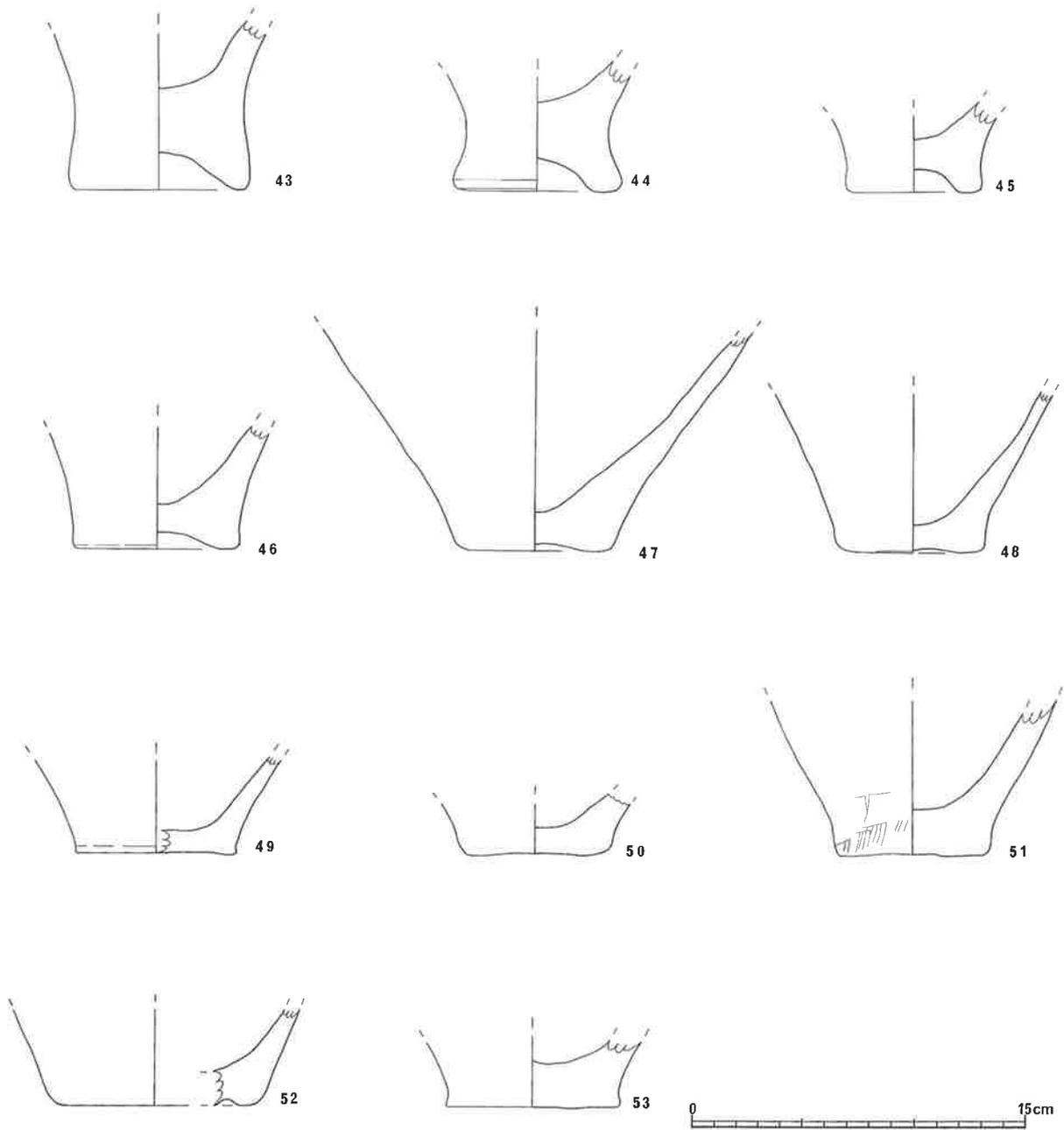


第29図 22次調査区出土遺物④ (1/3)

は内面が5YR6/8橙色、外面が5YR5/8明赤褐色を呈する。胎土に長石・石英・雲母・赤色粒子・小礫を含む。T 12Ⅲ層出土。24・25は甕の口縁部。24は内面が7.5YR6/8橙色、外面が10YR7/6明黄褐色を呈する。胎土に長石・石英を含む。T 3Ⅴ層出土。25は内面が5YR5/8明赤褐色、外面は10YR7/3鈍い黄橙色を呈する。T 4Ⅲ層出土。26は鉢の口縁部で黒川式に近いと見られる。胎土に長石・石英・雲母・砂礫を含む。T 14Ⅳ層出土。27は甕の口唇部に刻目を持ち、外面には刷毛目をもつ。色調は内面が10YR7/3鈍い黄橙色、外面が7.5YR7/8黄橙色を呈する。胎土に長石・石英・雲母・茶色粒子・小礫を含む。T 13Ⅳ層出土。28～42は甕の口縁部で、40・42は径を復元できる。28の内面は10YR4/2灰黄褐色、外面は7.5YR5/4鈍い褐色を呈する。胎土に長石・石英・雲母・小礫を含む。また、外面は風化により劣化しているが、刷毛目が確認できる。T 13Ⅳ層出土。29はT 6ピット4内出土。内面が2.5YR5/8明赤褐色、外面が5YR5/8明赤褐色を呈する。胎土に石英・長石・赤色粒子を含む。30は内面が5YR6/8橙色、外面が5YR5/8明赤褐色を呈する。胎土に長石・石英・雲母を含む。T 3Ⅴ層出土。31は内面が5YR5/6明赤褐色と10YR4/1褐灰色、外面は5YR3/3暗赤褐色を呈する。胎土に長石・石英・雲母を含む。T 3Ⅴ層出土。32は内面が2.5YR5/6明赤褐色、7.5YR6/3鈍い褐色を呈し、外面が2.5YR4/6赤褐色を呈する。胎土に長石・石英を含む。T 3Ⅴ層出土。33は内面が2.5YR5/6明赤褐色、外面が5YR5/4鈍い赤褐色を呈する。胎土に長石・石英・雲母・小礫を含む。T 6Ⅲ層出土。34は口縁の下部に貼付突帯が1条施されている。色調は内面が10YR7/6明黄褐色、10YR5/1褐灰色、外面が5YR5/6明赤褐色、5YR4/2灰褐色を呈する。胎土に長石・石英・赤色粒子・砂礫を含む。T 6Ⅱ層出土。35は口唇部に刻目が施されている。色調は内面が5YR4/6赤褐色、外面が5YR5/6明赤褐色を呈する。胎土に長石・石英・雲母・小礫を含む。T 13Ⅲ層出土。36はT 6ピット4内出土。色調は内面が7.5YR6/4鈍い橙色、外面が5YR4/4鈍い赤褐色を呈する。胎土に長石・

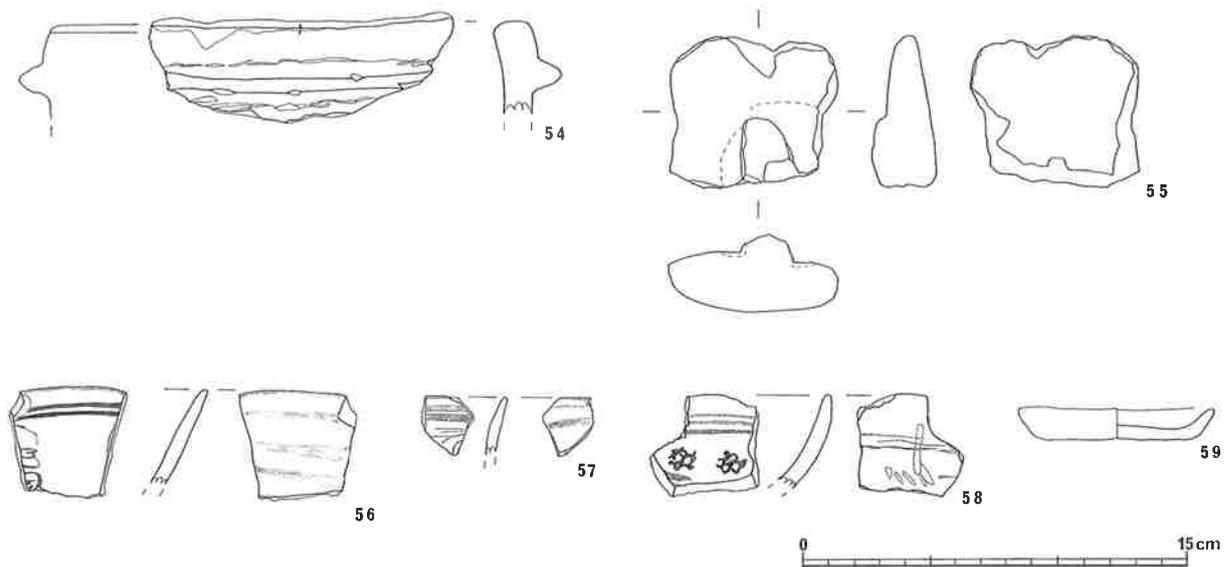


第30图 22次調査区出土遺物⑤ (1/3)



第31図 22次調査区出土遺物⑥ (1/3)

石英・雲母を含む。37は口唇部がやや下向きになっており、内面・外面ともに刷毛調整が施されている。色調は内面が10YR5/1褐灰色、外面が2.5Y5/2暗灰黄色を呈する。胎土に長石・石英・雲母・小礫を含む。T12Ⅳ層出土。38は外面に刷毛調整が施されており、色調は内面が7.5YR6/6橙色、外面が5YR6/6橙色を呈し、胎土に長石・石英・金雲母・砂礫を含む。T12Ⅱ層出土。39は内面が7.5YR5/6明褐色、外面が5YR4/3鈍い赤褐色を呈する。胎土に長石・石英・金雲母・小礫を含む。T12Ⅲ層出土。40は内面が10YR7/4鈍い黄橙色と5Y5/1灰色で、外面が5YR5/8明赤褐色を呈する。胎土に長石・石英・雲母を含む。T13Ⅳ層出土。41は内面が7.5YR6/4鈍い橙色、外面が10YR5/4鈍い黄褐色を呈する。胎土に長石・石英・雲母を含む。T13Ⅲ層出土。42は口縁の下に1条の貼付



第32図 22次調査区出土遺物⑦ (1/3)

突帯をもち、刷毛調整が行われている。色調は内面が10YR5/3黄褐色、外面が2.5YR5/3鈍い赤褐色を呈する。胎土に長石・石英・雲母を含む。T 6 土壌内出土。

43～53は甕の底部である。43～47は上げ底になっており、段階的な変化がわかる。48は指痕があり平底でない。49～51・53は平底になっている。52は底の中心部は平底になっているが、周囲が上げ底になっている。43の色調は内面が2.5Y4/1黄灰色、外面が2.5YR5/8明赤褐色を呈する。胎土に長石・石英・小礫を含む。T 13Ⅲ層出土。44は色調が内面は2.5Y3/2黒褐色、外面は5YR5/8明赤褐色を呈し、胎土に長石・石英・金雲母・小礫を含む。T 13Ⅳ層出土。45は色調が内面は2.5Y5/3黄褐色、外面は10R6/6赤橙色を呈する。胎土に長石・石英・雲母・小礫を含む。T 13Ⅲ層出土。46は内面が2.5YR5/8明赤褐色、外面が2.5YR6/8橙色を呈し、胎土に長石・石英・小礫を含む。T 14Ⅲ層出土。47は内面が5YR5/8明赤褐色及び5YR4/1褐灰色で、外面が2.5YR5/6明赤褐色を呈する。胎土に長石・石英・小礫を含む。T 13Ⅳ層出土。48は内面が5YR6/8橙色、外面は5YR4/6赤褐色を呈し、胎土に石英・長石・雲母・砂礫を含む。T 6 土壌内出土。49は内面が10YR4/3鈍い黄褐色で、外面が7.5YR4/3褐色を呈する。胎土に石英・長石・金雲母・砂礫を含む。T 3 V層出土。50は内面が5Y5/2灰オリーブ色、外面が2.5YR4/6赤褐色を呈し、胎土に長石・石英・雲母・小礫を含む。T 6 ピット 3 内出土。51は外面に刷毛目調整が見られる。色調は内面が7.5YR5/4鈍い褐色で、外面が10YR6/3鈍い黄橙色を呈しており、胎土に長石・石英・小礫を含む。T 14Ⅲ層出土。52は全体的に風化が著しいが、ナデ調整と刷毛目調整が見られる。色調は内面が2.5YR4/6赤褐色、外面が7.5YR5/4鈍い褐色を呈する。胎土に長石・石英・雲母を含む。T 3 Ⅳ層出土。53は内面が7.5YR7/4鈍い橙色、外面が5YR6/4鈍い橙色を呈する。胎土に長石・石英・雲母・小礫を含む。T 13Ⅳ層出土。

54・55は滑石製の石鍋である。54は良質タルクの滑石で、横耳を持った口縁部である。T 10 Ⅱ層出土。55は石鍋の2次加工品のバレン状石製品と思われる。ツマミ状の部分は本来石鍋の縦耳であったと思われる。T 14Ⅲ層出土。

56～58は青磁碗の口縁部である。56は内外面共に篋描きの文様を施している。色調は内面が7.5GY7/1明緑灰色及び7.5GY6/1緑灰色を呈し、外面が10GY7/1明緑灰色及び10GY6/1緑灰色を呈する。胎土に黒色粒子を含む。調整はやや精緻で、焼成はやや良である。T13Ⅲ層出土。57は内外面共に篋描きし、口唇部を指ナデ調整している。色調は内面が10Y6/2オリーブ灰色及び5Y4/3暗オリーブ色を呈し、外面が7.5Y5/2灰オリーブ色を呈している。調整はやや精緻で、焼成はやや良である。T12Ⅰ層出土。58は内面に象嵌を施し、外面は篋描き文様を施している。色調は内面が7.5Y5/2灰オリーブ色及び7.5Y8/3淡黄色を呈し、外面が10Y5/2オリーブ灰色及び7.5Y8/2灰白色を呈する。調整はやや精緻で、焼成はやや良である。T3Ⅱ層出土。

59は土師器坏である。全体が指ナデ調整され、底部には板状圧痕が施されている。色調は内面が10YR8/6黄橙色を呈し、外面が2.5YR7/4淡赤橙色を呈する。胎土に小礫・茶色粒子を含み、調整はやや粗雑で、焼成はやや不良である。T3Ⅳ層出土。

第V章 平成20年度確認調査の概要

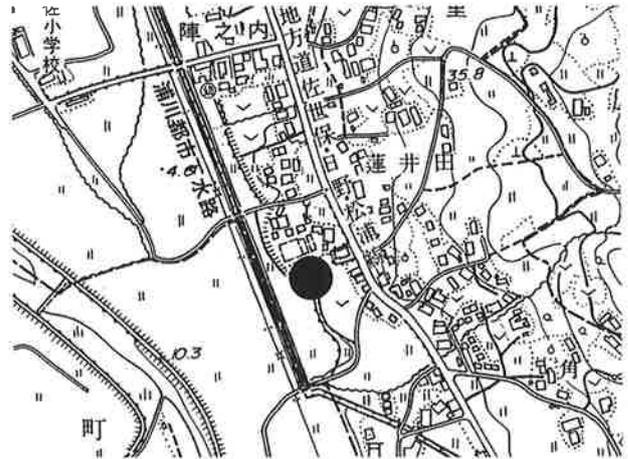
ここでは、平成20年度に国庫補助を受けて確認調査を実施した久保園遺跡・栢ノ木遺跡について、その調査を以下に概説する。

1. 久保園遺跡（第33図～第39図）

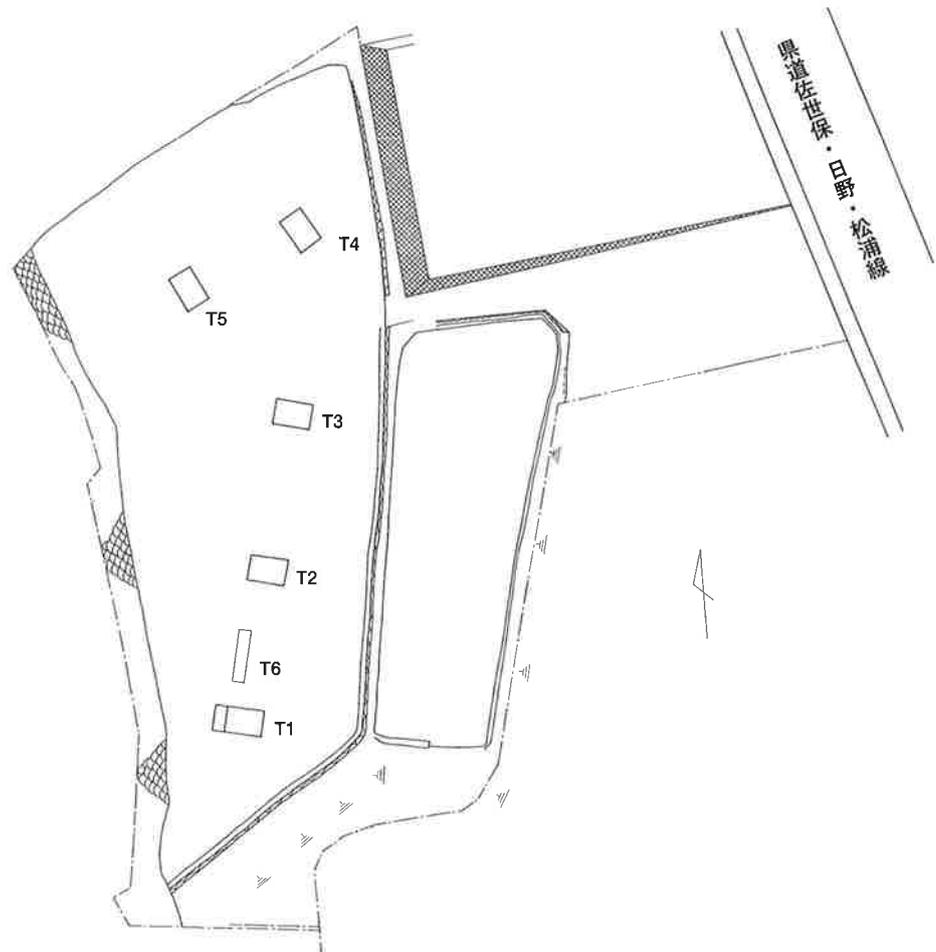
立地 久保園遺跡は松浦市内中心部を流れる志佐川の東部の河岸段丘上に所在し、付近には陣ノ内遺跡、宮ノ下り遺跡が所在し、志佐川を挟んで対岸には栢ノ木遺跡が所在する。

調査 今回の調査は、集合住宅建設に伴う範囲確認調査で、調査面積は2m×3mを基本に調査区を6箇所設定し、合計30㎡を調査している。調査は平成20年6月16日から6月30日まで実施した。久保園遺跡ではこれまでに本調査や確認調査等合わせて5回の調査を行っている。今回は久保園遺跡における第6次の調査にあたる。

遺構 T1区から甕棺の一部を1基検出している。平成17年度の3次調査の報告において甕棺墓が1号から3号まで付してあるので、そのまま踏襲して久保園遺跡における4号目の甕棺墓として4号甕

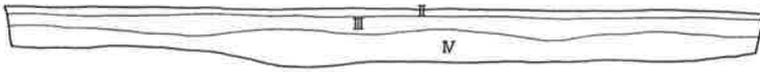


第33図 久保園遺跡位置図 (1/10,000)



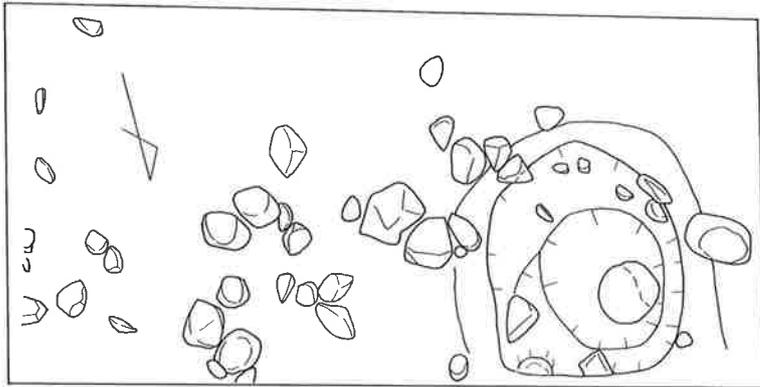
第34図 6次調査区設定図 (1/600)

T1南壁

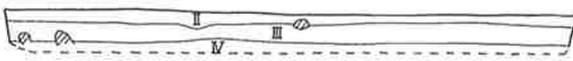


12.86m

- II 灰褐色粘質床土
- III 黄褐色粘質
- IV 茶褐色地山



T2北壁



13.15m

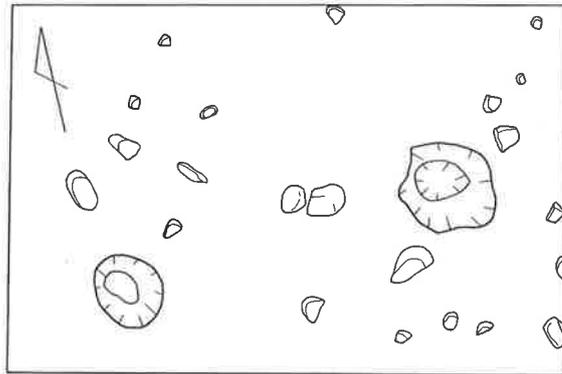
- II 黄灰褐色粘質床土
- III 黄褐色粘質
- IV 茶褐色地山

T3北壁

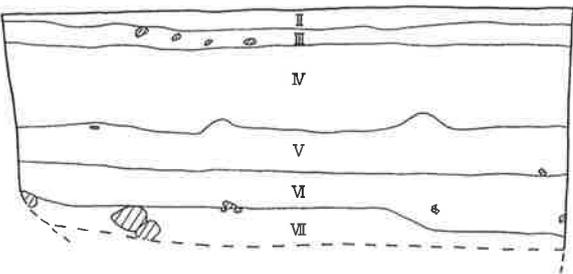


12.84m

- II 黄灰褐色粘質床土
- III 黄褐色粘質
- IV 茶褐色地山



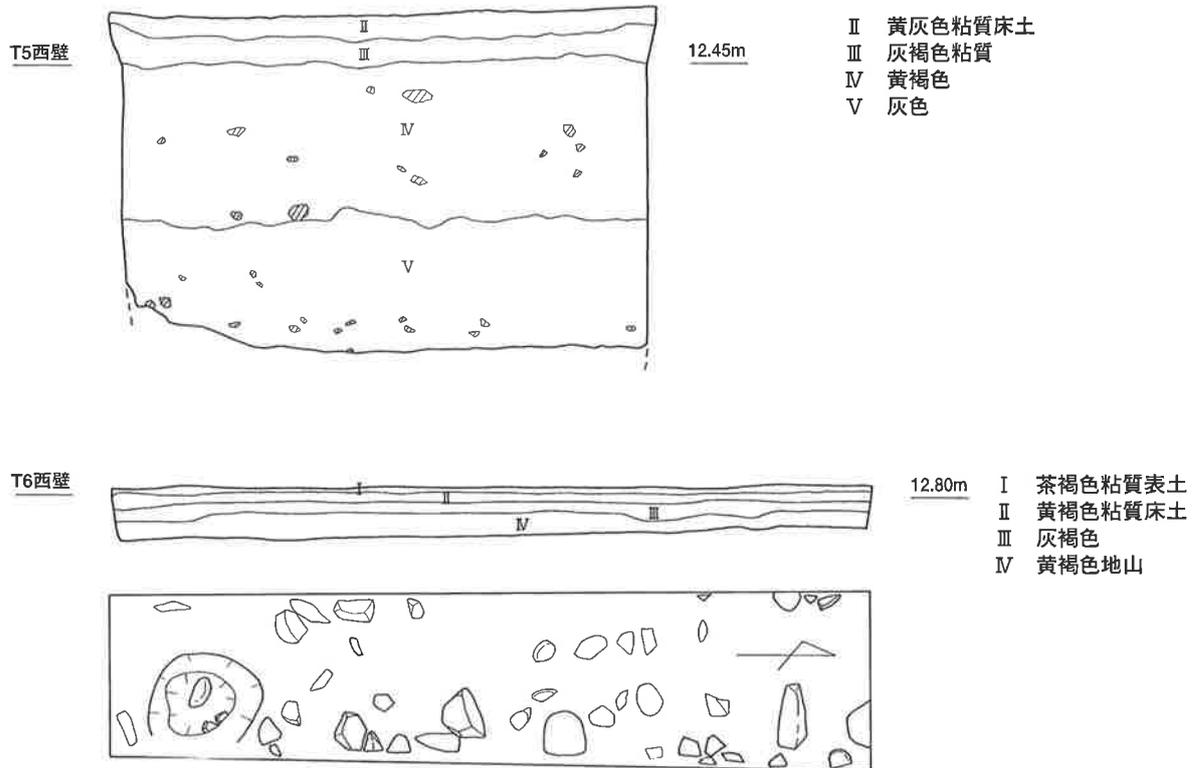
T4西壁



12.80m

- II 黄灰色粘質床土
- III 灰褐色粘質
- IV 黄褐色
- V 灰色
- VI 黄灰色
- VII 茶褐色混礫 (繩文包含層)

第35图 6次調査区土層・遺構配置図① (1/40)



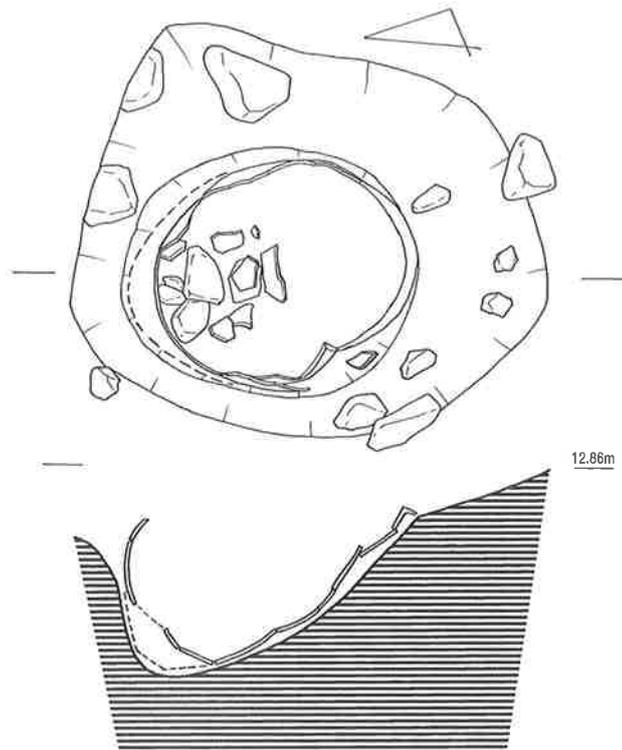
第36図 6次調査区土層・遺構配置図② (1/40)

棺とする。土壌は南から北へ向かって深くなっており、甕は土壌に沿って南から北へ向かって斜めに埋設されている。土地の削平により口縁部の一部を残して甕の上部が失われている。時期的には甕の胴部に突帯が1条施されており、弥生中期前半の汲田式に近いと思われる。甕の内部には人骨や副葬品は残っていなかった。基本土層は、II層灰褐色粘質床土、III層黄褐色粘質土、IV層茶褐色地山であった。

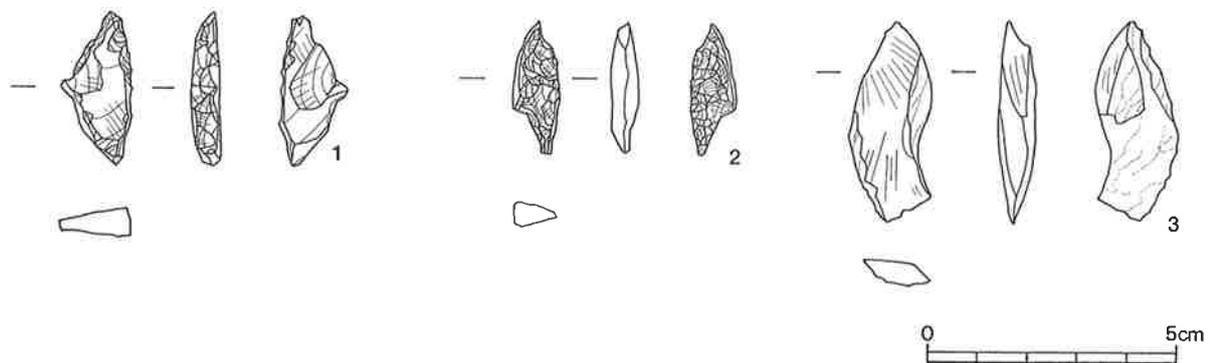
T2区からは遺構は検出していない。T3区からはピット2箇所を検出しており、ピット1からは中世の陶器片が出土している。一方、T4区及びT5区はかつて川や池であった所が埋められたような状況であった。干拓の跡かと考えられる。T4区の土層は、II層黄灰色粘質床土、III層灰褐色粘質、IV層黄褐色、V層灰色、VI層黄灰色、VII層茶褐色混礫で、VII層の礫の間から縄文の遺物が出土しており、縄文の包含層を示している。T5区では、II層黄灰色粘質床土、III層灰褐色粘質、IV層黄褐色、V層灰色と精査したところで地表との差が非常に高くなってきたため、調査期間が梅雨の時期にあたったということもあり出水が多く危険を伴ってきたため、また隣接のT4区と同じ土層状況であることを確認したため、精査を終了した。T1区とT2区の間にはT6区を設定し精査したが、地山に深さ約15cm掘り込んだ径約20cmのピットを1箇所検出しており、弥生中期の甕形土器の口縁部が1点出土している。土層の状況は、I層茶褐色粘質表土、II層黄褐色粘質床土、III層灰褐色、IV層黄褐色の地山であった。

遺物 1は黒曜石製のナイフ形石器である。大型の横長の剥片を使用していると見られ、3面の側

縁加工が主要剥離面からのみ施されている。加工途中の未成品と考えられる。T 5 V層出土。2は黒曜石製の石鏃である。基部が深く抉られた凹基無茎鏃で、全体の約半分が欠損している。T 5 IV層出土。3は磨製石斧の小破片である。表面の劣化が著しいが、研磨の痕を見ることができる。T 5 IV層出土。4は型押し花文の白磁の合子の身である。表面の劣化が著しく、一部釉が摩滅している。釉は内面が10YR7/3鈍い黄橙色、外面が2.5Y7/3浅黄色を呈する。調整はやや良で焼成はやや良である。胎土は2.5Y8/2灰白色で黒色粒子をわずかに含む。T 5 V層出土。5は土師器坏である。底部は静止糸切となっている。色調は内面が5YR6/8橙色、外面が5YR7/6橙色を呈する。胎土に長石・雲母・白色粒



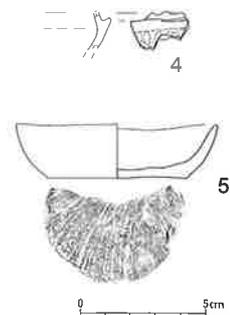
第37図 6次調査区4号甕棺墓実測図(1/20)



第38図 6次調査区出土遺物①(2/3)

子・赤色粒子・砂礫・角閃石を含む。調整はやや粗雑で、焼成はやや良である。T 4 IV層出土。

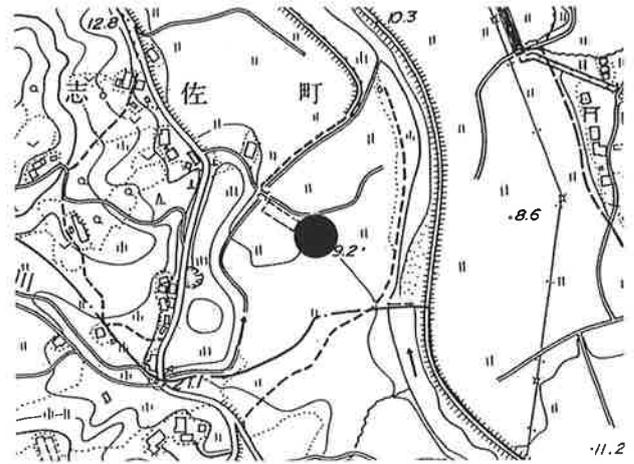
このほか、T 1より検出した4号甕棺についてはナンバーリングに時間がかかり過ぎてしまい復原作業に時間を割くことができず、本報告に掲載できなかったことと他の遺物についても網羅できていない点をお詫びし、次回の報告書に掲載することで責務を果たしたい。



第39図 6次調査区出土遺物②(1/3)

2. 栢ノ木遺跡 (第40図～第45図)

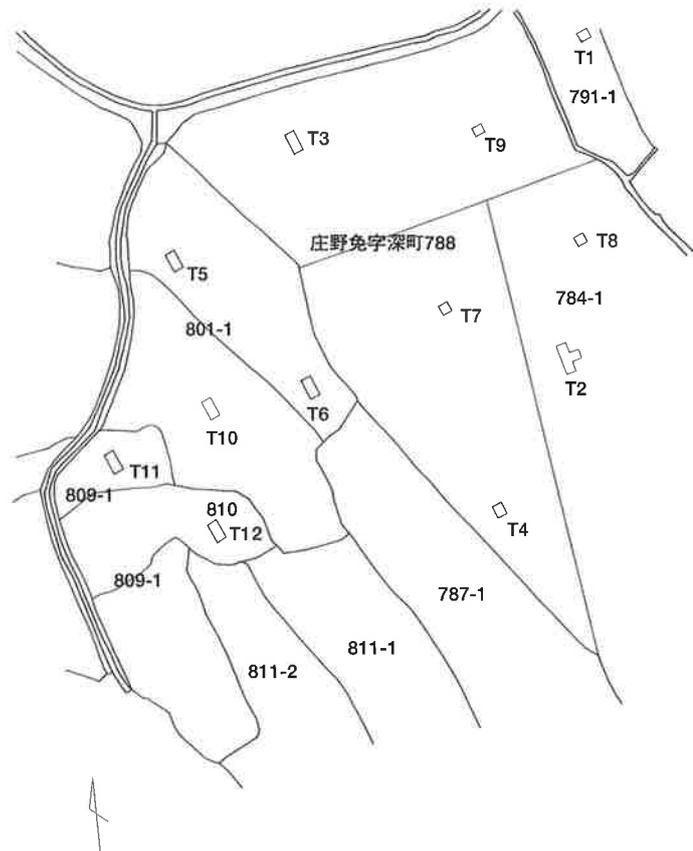
立地 栢ノ木遺跡は市内中心部を流れる志佐川西部の段丘上に位置しており、対岸には宮ノ下り遺跡、久保園遺跡、陣ノ内遺跡が所在している。なお、市役所からの直線距離が約1.5kmしか離れておらず市街地に近い立地に所在するため、開発工事の候補地に選ばれる確率が高く、長崎県の重要遺跡にもなっているため、これまでに栢ノ木遺跡では22次に及ぶ本調査や確認調査を実施している。



第40図 栢ノ木遺跡位置図 (1/10,000)

調査 今回の調査は栢ノ木遺跡における第23次調査である。栢ノ木遺跡には近くに志佐川、佐々山、庄野川があり、水田耕作に適している地理的条件にある。そのため、調査は稲の刈り入れが終わった後の平成20年11月13日から12月16日まで実施している。調査は2m×4mと2m×2mの調査区を基本に12箇所設定し、調査面積は合計84m²であった。

遺構 志佐川に非常に近いT1区には遺構は検出しなかったが、土層はI層耕作土、I'層褐色、II層黒褐色、III層黄褐色、IV層黄灰褐色粘質、IV'層黄灰褐色混礫(玉砂利)、V層赤褐色風化土であり、志佐川により形成された均質的な堆積層の状況を示している。また、志佐川に近いT2区からは、覆土に焼けた土と思われる赤灰色土混じりの赤褐色砂質土に部分的に炭化物を含む黒褐色砂質土の入った土壌を検出している。大きさは径約2m、深さ約30cmで、黄褐色の地山を掘り込んでおり、II層の直下で甕形土器がつぶれて散らばった状態で出土している。土層の状況は、I層耕作土、II層暗褐色粘質床土、III層赤褐色、III'層黒褐色、IV層黄褐色の地山である。このように志佐川に非常に近い地点で遺構を検出したため、T1区とT2区の間にはT8区を設けて精査したが、遺構は検出しなかった。



第41図 23次調査区設定図 (1/1,500)

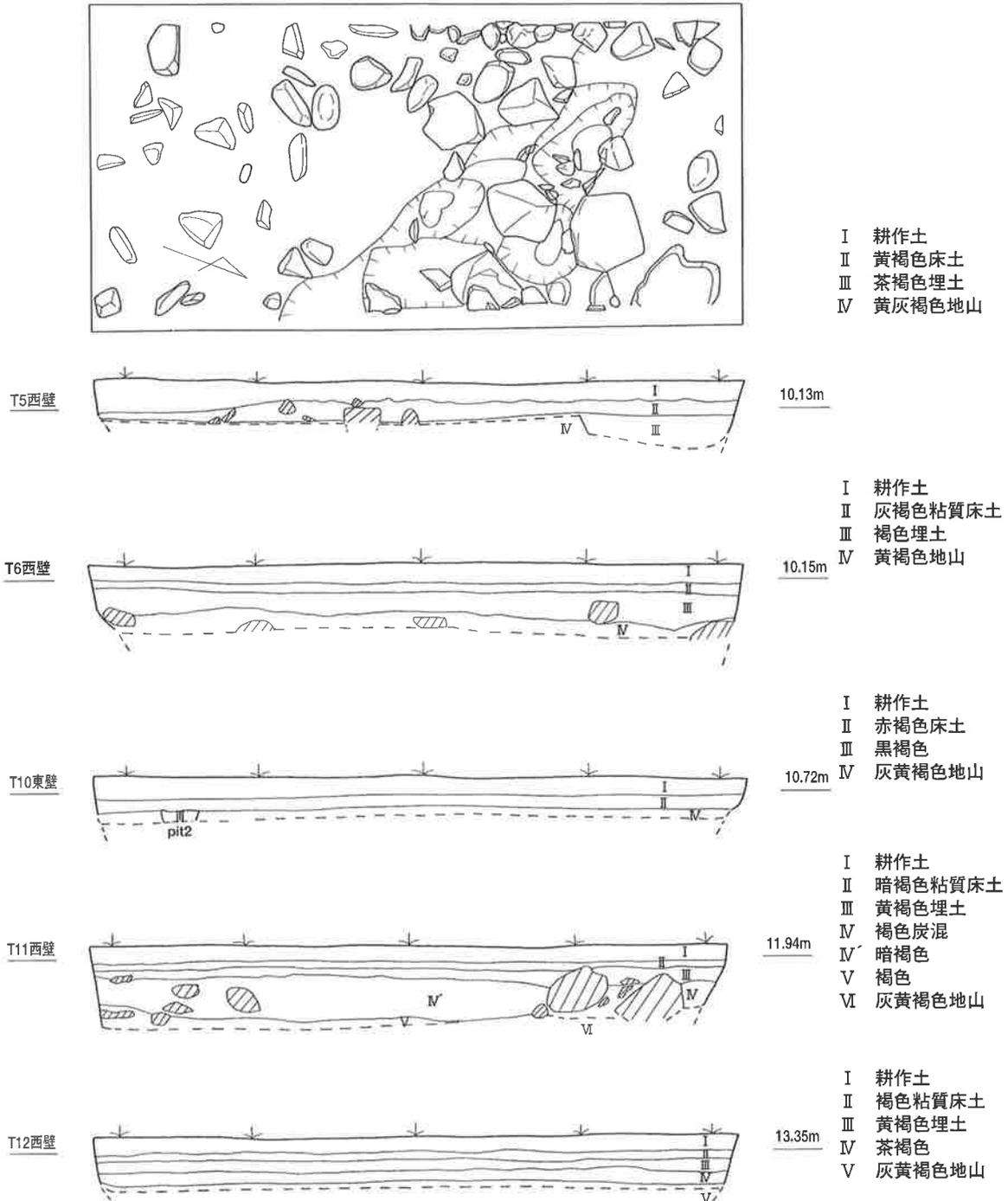


第42図 23次調査区土層・遺構配置図 (1/40)

土層の状況は、I層耕作土、II層暗褐色粘質床土、III層黄褐色粘質埋土、IV層暗褐色粘質、V層褐色混礫（拳大）、VI層橙色混礫（人頭大）の地山であった。

T1・2区よりも若干標高の高いT3・4区及びT7・9区は遺構がなく、川の氾濫原もしくは河道の様相を呈しており、かつての志佐川は現在の姿とは大きく異なり蛇行していたことが伺える。また、調査区付近の字名は深町となっており、往時は現在の志佐川の奥深くまで海が入り込んでおり、資材や穀物などを運ぶ運搬船が行き来していたといわれている。T3区土層は、I層耕作土、II層灰褐色粘質床土、III層黄褐色混礫埋土、IV層灰色粘質、V層灰色混礫砂。T4区土層は、I層耕作土、II層灰褐色粘質床土、III層黄褐色、IV層黄灰色混礫粘質、V層灰色混礫。T7区土層は、I層耕作土、II層暗褐色粘質床土、III層黄灰褐色混礫、IV層灰褐色粘質、V層黒褐色粘質、VI層茶褐色。T9区土層はI層耕作土、II層灰褐色粘質床土、III層黄褐色埋土、IV層灰色粘質、V層黄褐色（埋土か）、VI層褐色となっている。

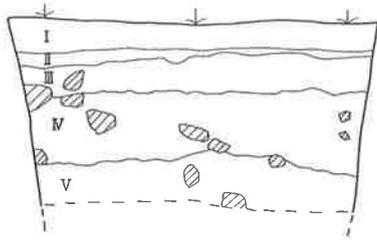
段丘上に設定したT5・6区及びT10~12区のうち、T10区の土層状況は客土による埋土



第43図 23次調査区土層図① (1/40)

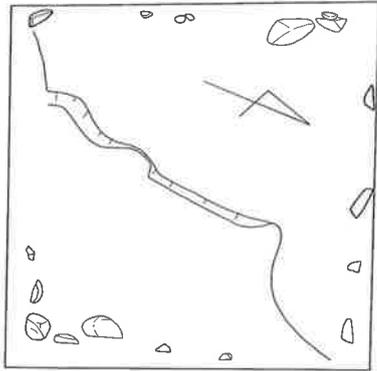
が見られ、埋土の中から遺物が出土しており、耕作地を開墾し、土地改良した折に周囲の遺跡が壊されて埋められていることが伺える。T5区では、I層目の耕作土の下にII層目の水田の床土とIII層目の客土による埋土があり、IV層目で暗黄褐色の地山になっている。T6区では遺構は検出できなかった。T5区と同じくI層耕作土、II層水田の床土、III層客土による埋土、IV層暗黄褐色の地山である。T10区では、IV層目の灰黄褐色の地山を掘り込んだピット2箇所を検出している。T11区では遺構は

T4西壁

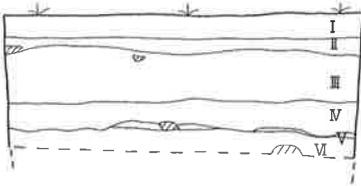


8.96m

- I 耕作土
- II 灰褐色粘質床土
- III 黄褐色
- IV 黄灰色混礫粘質
- V 灰色混礫土

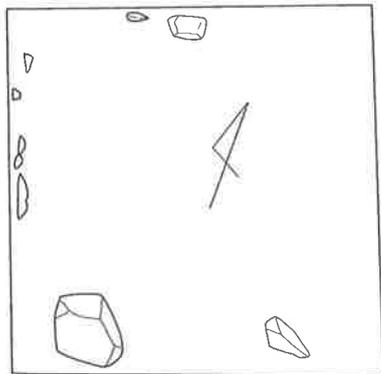


T7西壁

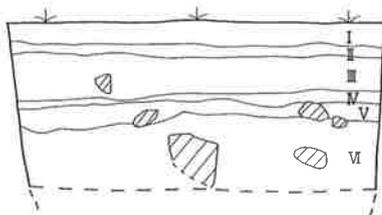


8.96m

- I 耕作土
- II 暗褐色粘質床土
- III 黄灰褐色混礫土
- IV 灰褐色粘質
- V 黑褐色粘質
- VI 茶褐色



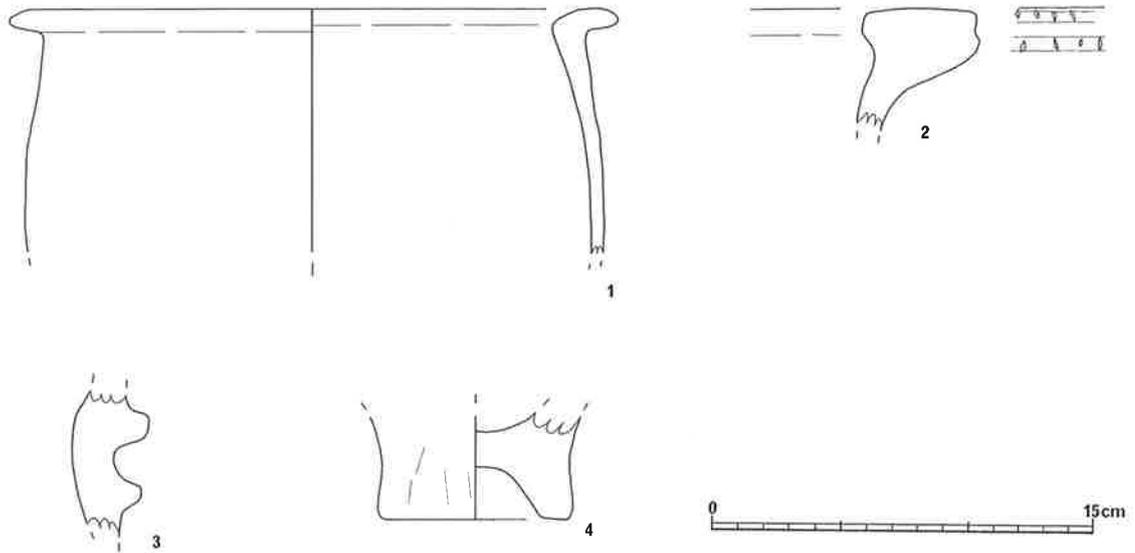
T9北壁



7.76m

- I 耕作土
- II 灰褐色粘質床土
- III 黄褐色埋土
- IV 灰色粘質
- V 黄褐色
- VI 褐色

第44图 23次調査区土層图② (1/40)



第45図 23次調査区出土遺物 (1/3)

検出できなかった。土層の状況はⅠ層耕作土、Ⅱ層暗褐色粘質床土、Ⅲ層黄褐色埋土、Ⅳ層炭化物混じり褐色、Ⅳ'層暗褐色、Ⅴ層褐色、Ⅵ層灰黄褐色地山である。T12区からは径20～30cmのピット6箇所を検出している。なお、土層の状況はⅠ層耕作土、Ⅱ層褐色粘質床土、Ⅲ層黄褐色埋土、Ⅳ層茶褐色、Ⅴ層灰黄褐色地山であった。

遺物 1は甕型土器の口縁部である。胎土には長石・石英・小礫・雲母を含む。調整はやや粗雑で、焼成はやや不良である。T2土壌内出土。2は大型の埋葬用甕棺の口縁部である。口唇部が二重になっており上下とも刻目が施されている。胎土には長石・石英・雲母・小礫を含み、調整はやや粗雑で、焼成はやや不良である。T11Ⅲ層出土。3は大型の埋葬用甕棺の胴部に施されたM字幅広の2連の貼付突帯部分である。胎土には石英・長石・雲母・小礫を含み、調整はやや粗雑で焼成はやや不良である。T11Ⅲ層出土。4は甕の底部である。上げ底になっており、刷毛目調整が見られる。胎土には長石・石英・雲母・小礫を含む。調整はやや粗雑で焼成はやや不良である。T2土壌内出土。

なお、このほかにも掲載して紹介すべき遺物があったにもかかわらず、限られた整理期間内での作業の中でナンバーリングに時間を費やすこととなり、他の遺物まで網羅して掲載できなかったことに対して慙愧に堪えない、次の報告書にまとめて掲載したい。

第Ⅵ章 ま と め

松浦市では、平成7年度から3カ年ずつの継続事業として市内での圃場整備事業、農道整備事業、宅地造成、個人宅地建築などに伴う埋蔵文化財の確認調査を実施している。平成18年1月に松浦市・福島町・鷹島町の1市2町で合併した後も新松浦市の継続事業として実施した。

今回の報告書に掲載した遺跡は、平成18年度に実施した久保園遺跡（2件）・栢ノ木遺跡と、平成19年度に実施した栢ノ木遺跡と平成20年度に実施した久保園遺跡・栢ノ木遺跡である。この3年分の報告の中で、重要と思われることについて検討すべき課題を挙げてまとめとする。

栢ノ木遺跡は、市内でも弥生時代の重要な遺跡として位置付けており、試掘調査及び確認調査を継続して実施している。平成20年度の第23次調査までの確認調査や本調査の結果から従来考えられていた範囲よりも更に北側に広く分布していることが認められ、弥生時代から中世期にかけての複合遺跡であることも確認している。しかし、かつての集落の一部は今では水田地帯として利用されているため、遺物包含層が削平されていたり、厚く堆積した埋土に覆われていたり、当時の集落跡は変化を余儀なくされている現状である。平成12年度に行った試掘調査では堂山古墳と言われている地点で山浦川より北東の水田地帯で圃場整備事業に伴う調査を行っている。この時点では山浦川より以北には分布していないと考えていたが、昭和51年発行の文化庁の遺跡地図では深町遺跡という名称で周知されており、また、平成7年に長崎県教育委員会から発行された『長崎県遺跡地図－佐世保市・平戸市・松浦市・北松浦郡・東彼杵郡地区－』にはこの深町遺跡が記載されていなかった。しかし、地元の住民からかつて甕棺？が発見されたという情報も入ってきたため、遺跡の有無の確認と栢ノ木遺跡の分布範囲に含まれているのかを確認するための調査を行うこととした。平成18年度の調査では、弥生期と中世期の掘立柱建物跡が集中する地点が検出されている。これまでも指摘されたことであるが、弥生期の遺跡を削平して中世期の建物が建てられているようである。平成19年度の調査においては、縄文期のピットのほか弥生期の柱穴及び土壌を検出している。平成20年度の調査では、弥生期の性格不明の土壌が志佐川のすぐ側から検出されている。これらの18年度から20年度にかけての調査から遺跡の存在が確認され、さらに範囲が広がることとなった。今後は庄野川を挟んで北側の様相がどうなっているのかを解明する必要があると思われる。ちなみに、庄野川の北側には中世期の石造物である庄野の六地藏塔が所在しており、関連性が出てくるのかどうかも見極める必要があると思われる。

久保園遺跡はこれまで縄文時代の散布地及び輸入陶磁器の散布地として周知されていたが、先の平成16年度・17年度の調査から弥生中期前半の墓域と集落が存在することが明らかとなり、今回の平成18年度から20年度までの調査でさらに縄文をはじめ弥生から中世にかけての複合遺跡であることが改めて証明されるような結果となった。平成18年度第4次調査では中世期の柱穴跡が検出され、それに伴い輸入陶磁器が出土している。同じく第5次調査では弥生期及び中世期の柱穴が検出されている。志佐川の対岸の栢ノ木遺跡では、弥生期の遺跡を削平して中世の町が築かれているようであるが、久

久保園遺跡も同じようなことが言えそうである。新たに弥生期の集落を想定する材料が加わり、中世の松浦を考える上で貴重な研究材料が更に加わった。平成20年度の第6次調査では、平成17年度の3次調査について4基目となる弥生中期前半の甕棺墓を検出しており、甕棺の形式に着目して考察する必要性が深まり、弥生期の遺跡としてさらに重要になってきた。また、中世期以降に造成されたと思われる干拓の跡が検出されている。このことは志佐川の対岸の栢ノ木遺跡や、付近の陣ノ内城跡等中世期の遺跡との関連性を考える上で貴重な材料が提供されたといえる。

栢ノ木遺跡も久保園遺跡も共に松浦の弥生時代の様相を示してくれる貴重な遺跡である。それぞれ調査された甕棺の形式から栢ノ木遺跡は弥生前期末、久保園遺跡は弥生中期前半に比定される。これらの甕棺は大型で北部九州との関係が指摘され地理的な条件からも、松浦の地は北部九州大集落の衛星集落的な性格を持っていたのではないかと推測される。しかし、集落の規模や構造、社会組織の解明にまでは至っていないため、今後の調査の成果が期待される場所である。また、久保園遺跡の範囲では今後も個人の宅地建築が計画される可能性が十分にあるため、平成21年度からも引き続き栢ノ木遺跡と同様に補助事業の一環として範囲確認調査を行っていきたいと考えている。

参考文献・引用文献

- 中田敦之 2004 『松浦市内遺跡確認調査（5） 土地開発に伴う市内遺跡確認調査報告』松浦市文化財調査報告書
第20集 長崎県松浦市教育委員会
- 中田敦之 2006 『松浦市内遺跡確認調査（6） 土地開発に伴う市内遺跡確認調査報告』松浦市文化財調査報告書
第21集 長崎県松浦市教育委員会
- 正林 護 1997 「栢ノ木遺跡」『原始・古代の長崎県 資料編Ⅱ』長崎県教育委員会

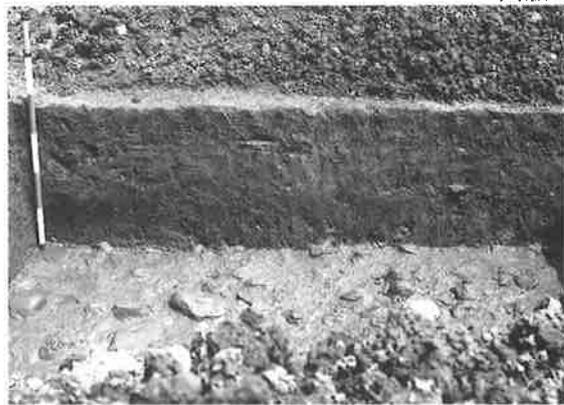
圖 版

図版 1



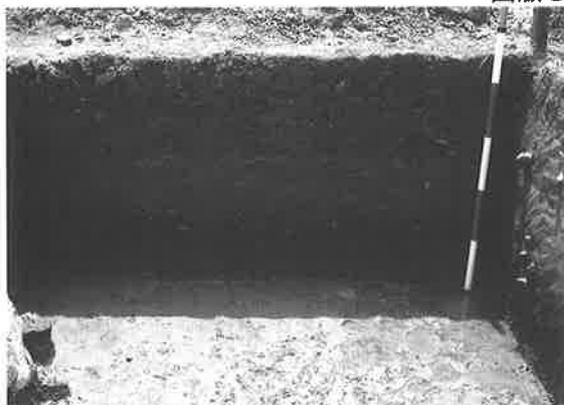
久保園遺跡 4次調査風景

図版 2



久保園遺跡 4次 T 1 北土層

図版 3



久保園遺跡 4次 T 3 西土層

図版 4



久保園遺跡 4次 T 6 西土層

図版 5



久保園遺跡 4次 T 7 南土層

図版 6



久保園遺跡 4次 T 3 遺物出土状況

図版 7



久保園遺跡 5次調査風景

図版 8



久保園遺跡 5次 T 1 北土層

図版9



久保園遺跡5次T2北土層

図版10



久保園遺跡5次T6北土層

図版11



栢ノ木遺跡21次T1北土層

図版12



栢ノ木遺跡21次T1遺構検出状況

図版13



栢ノ木遺跡21次T2北土層

図版14



栢ノ木遺跡21次T2遺構検出状況

図版15



栢ノ木遺跡21次T3遺構検出状況

図版16



栢ノ木遺跡21次T4北土層

図版17



栢ノ木遺跡21次T4遺構検出状況

図版19



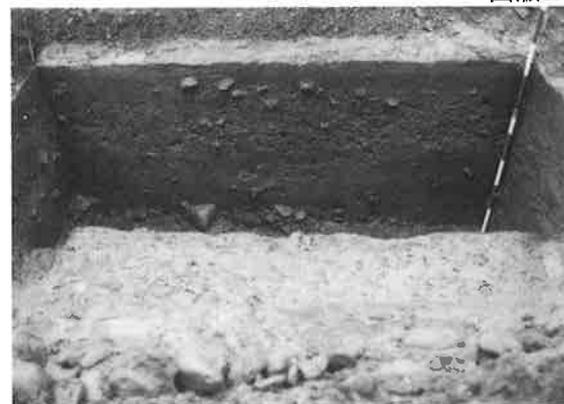
栢ノ木遺跡22次T6遺構検出状況

図版21



栢ノ木遺跡22次T13遺物出土状況

図版23



久保園遺跡6次T4西土層

図版18



栢ノ木遺跡22次T4西土層

図版20



栢ノ木遺跡22次T6遺構検出状況

図版22



久保園遺跡6次T1南土層

図版24



久保園遺跡6次T1・4号甕棺墓検出状況

図版25



久保園遺跡6次T1遺構検出状況

図版27



栢ノ木遺跡23次T2遺構検出状況

図版29



栢ノ木遺跡23次T10遺構検出状況

図版31



出土遺物②

31-47

図版26



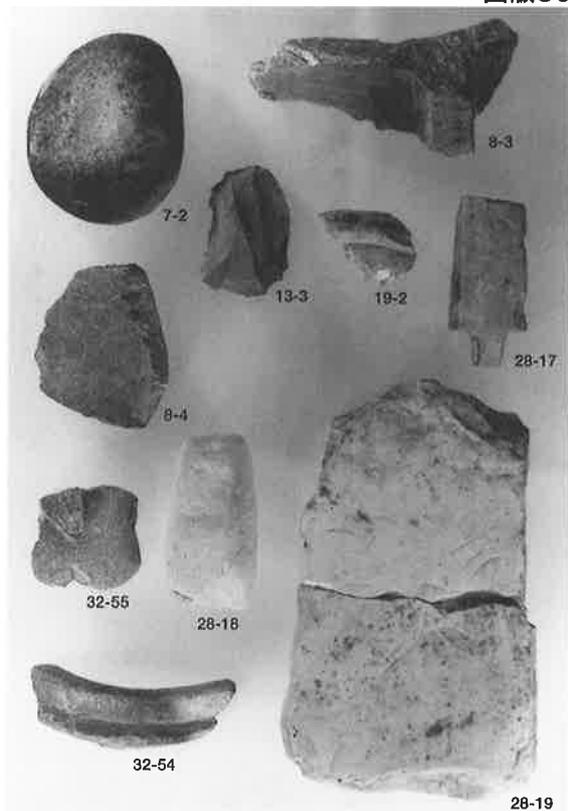
栢ノ木遺跡23次T2遺構検出状況

図版28



栢ノ木遺跡23次T2遺構検出状況

図版30



出土遺物①

28-19

7-2

8-3

13-3

19-2

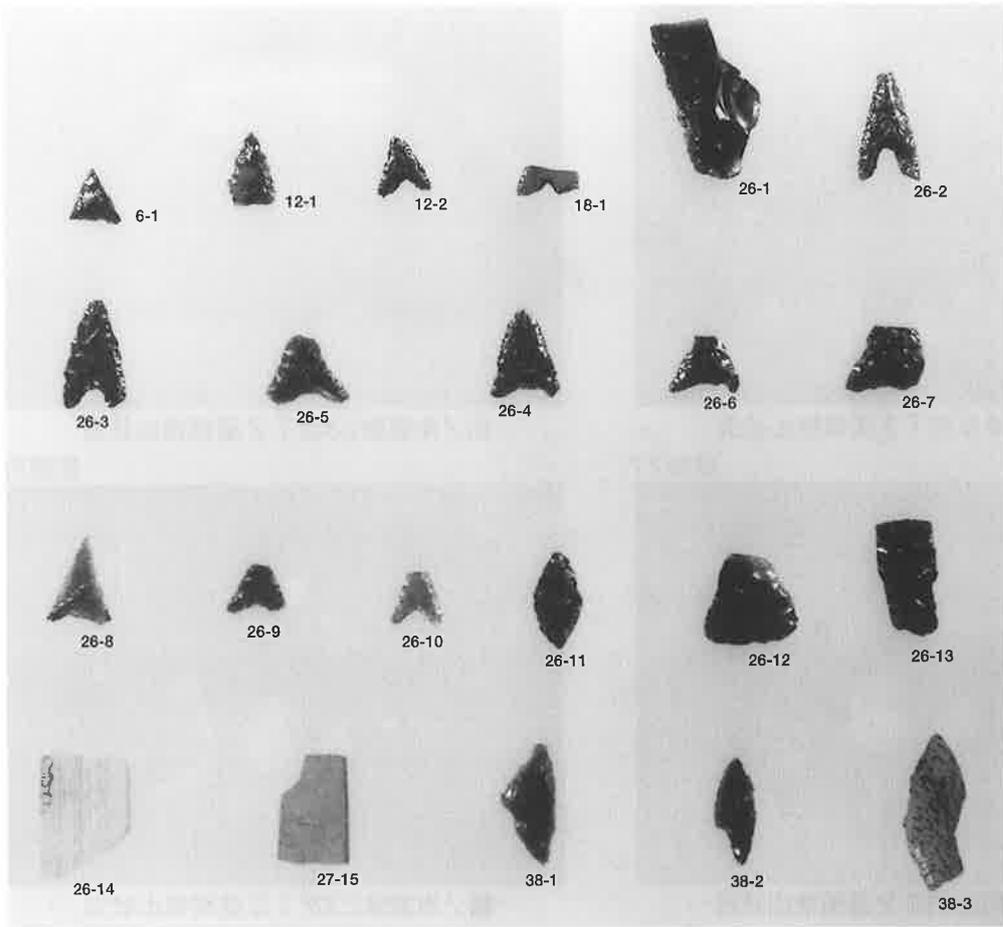
28-17

8-4

32-55

28-18

32-54



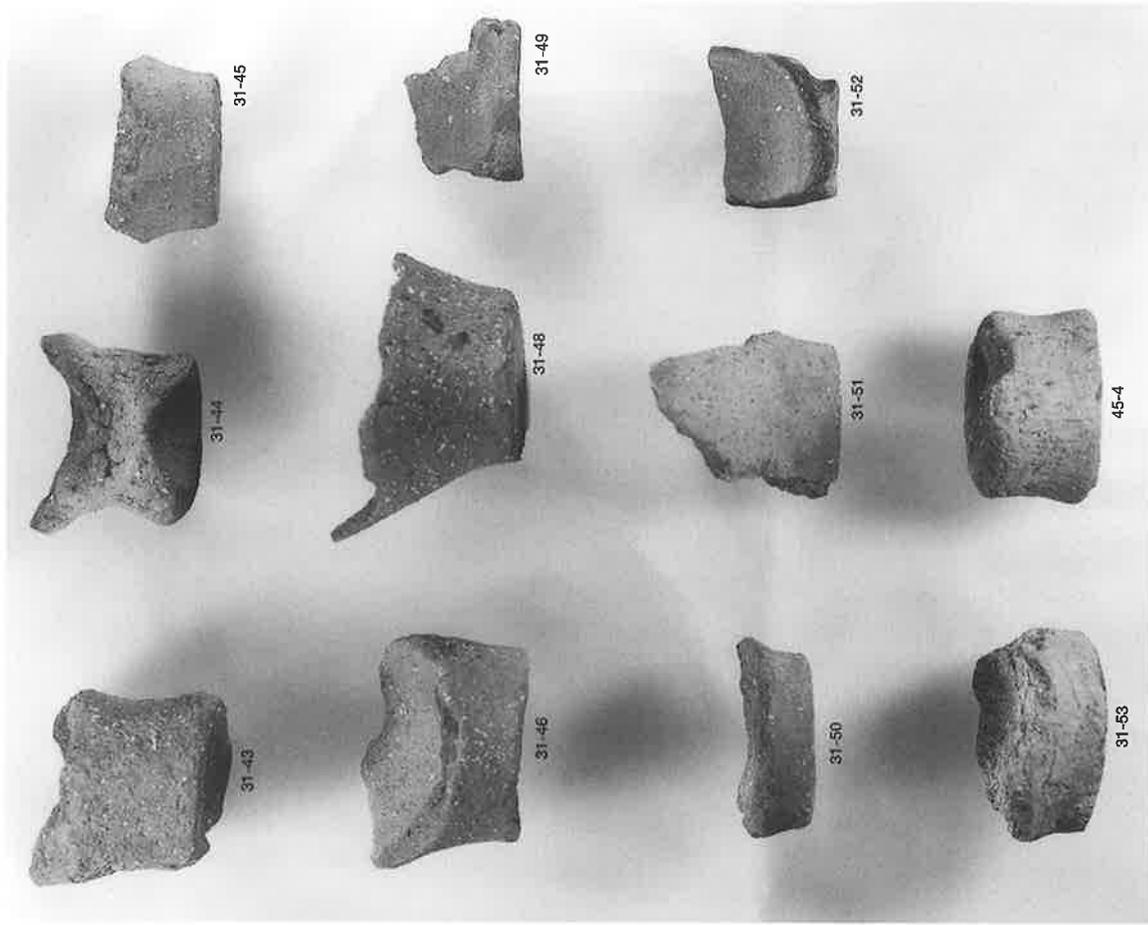
图版32
出土遺物③

图版33



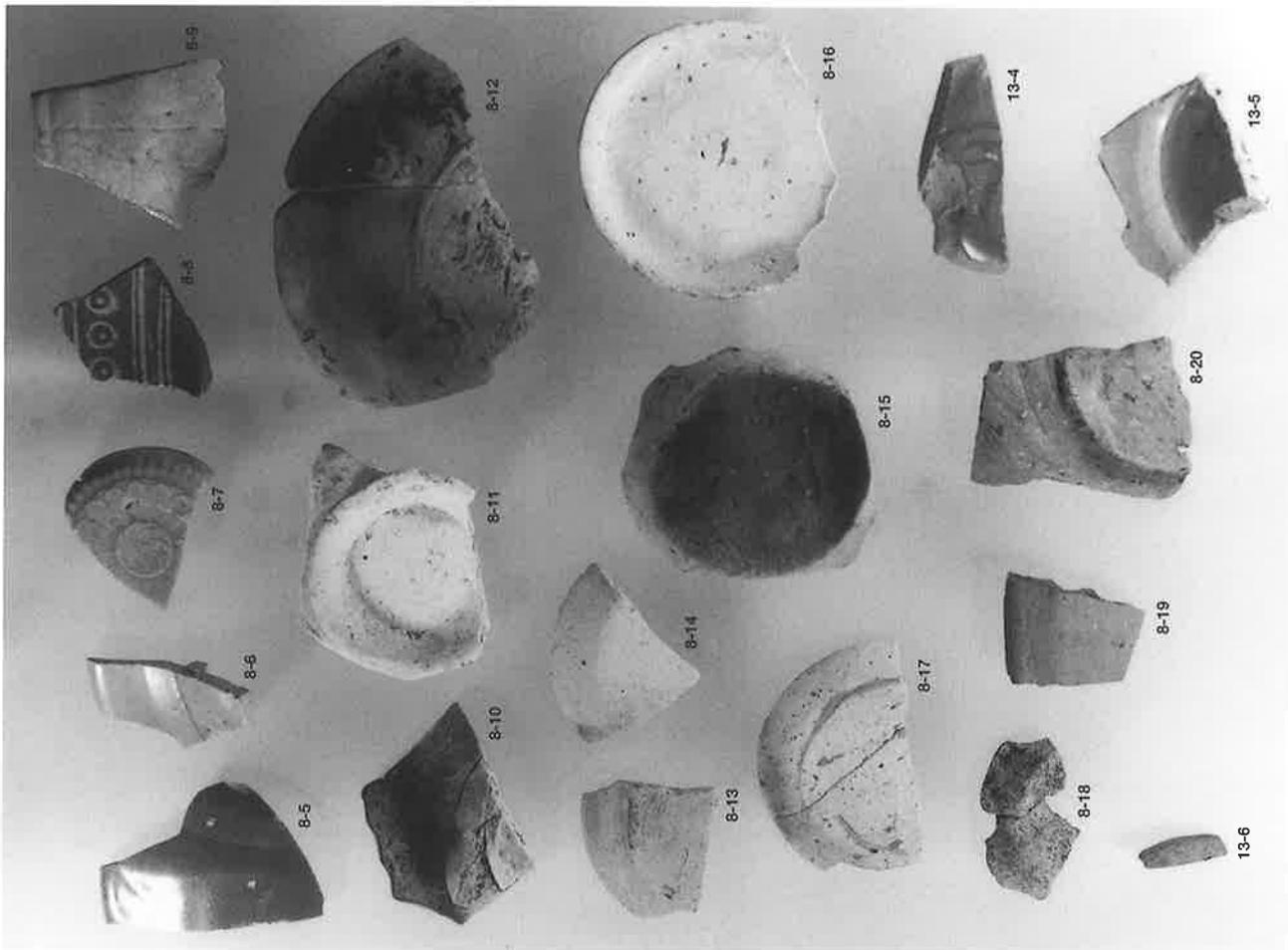
出土遺物④

図版34



出土遺物⑤

図版35



出土遺物⑥



出土遺物⑦

松浦市文化財調査報告書 第3集

松浦市内遺跡確認調査(2)

平成21年3月31日

発行 松浦市教育委員会
長崎県松浦市志佐町里免365番地

印刷 有限会社 タイセイ印刷
長崎県松浦市志佐町浦免886-7

